

2021年度決算説明会

2022年5月23日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

＜お問い合わせ先＞

取締役常務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

1 | トピックス

2 | 2021年度 決算概要

3 | 2022年度 業績予想

4 | 事業別 業績概要

5 | 付属資料

トピックス

社長ごあいさつ

取締役社長 高橋 英雄

「Vision 2030 Stage I」の骨子

中計「Vision 2030 Stage I」の基本方針

ESG・SDGs視点での経営の取り組みを強化することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す。

FY2023経営目標

■ 連結売上高	1,250億円超
■ 連結営業利益率	13%以上
■ ROE	10%以上
■ 株主還元方針	安定的かつ連結業績を反映した配当の継続

戦略の方向性

経営全般：■ ESG・SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組み強化

無機化学事業

■ 新たな価値創造で環境と情報化社会の進展に貢献

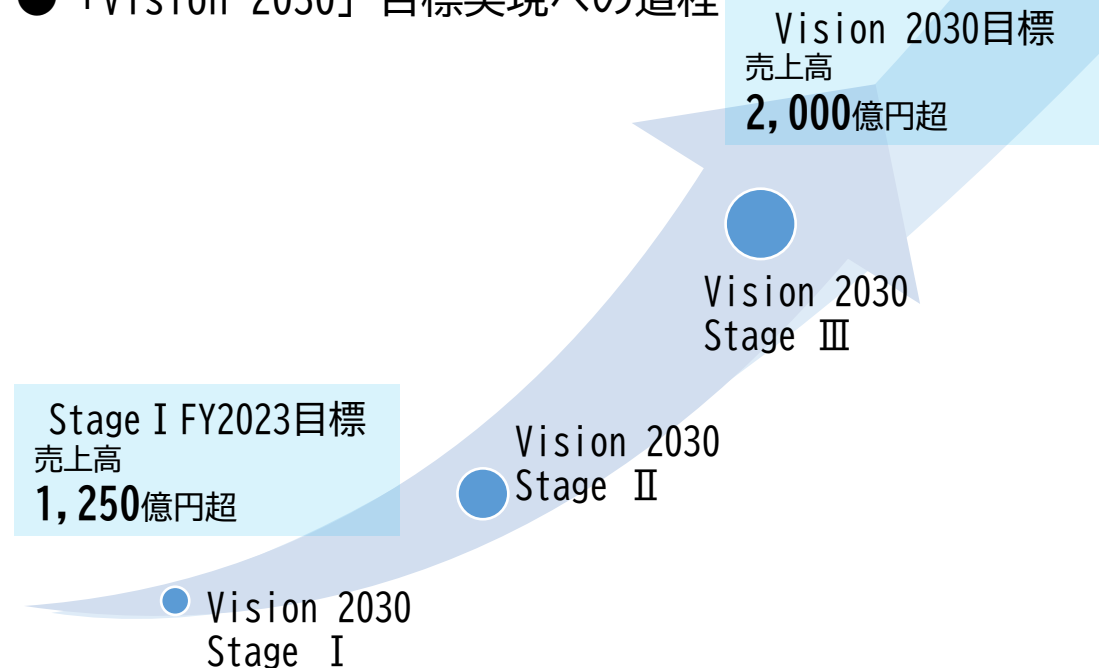
有機化学事業

■ 世界の人々の食、健康、生命への貢献

研究開発

■ 技術革新への挑戦

● 「Vision 2030」目標実現への道程



「Vision 2030 Stage I」の全体像

各事業の重点施策

無機化学事業

- 高機能・高付加価値品の販売比率向上
- 電子部品材料と導電性材料の拡販戦略の実行
- 更なる成長ドライバとなる新製品の開発加速
- 主原料鉱石の有利調達の実現
- 廃棄物低減や製造および業務プロセス改善による四日市工場のコスト削減の推進
- 製造拠点の最適化に向けたマスタープランの始動
- 温暖化ガス削減に向けたロードマップ作成

有機化学事業

- 主力農薬原体の世界一低コスト製造と安定供給により当社世界市場占有率の拡大
- 次期主力農薬の製造コスト低減と需要拡大
- バイオラショナル分野の開発・商品化とIPM深化
- 農薬の販社複数起用など戦略的・革新的な営業施策の実行
- 世界各国での農薬登録の取得・維持
- 化学合成技術の錬磨と伝承の基盤強化
- 動物用医薬品のグローバル展開

両事業共通

- トップライン（売上）の拡大
- 新事業/新製品創出力の強化
- 「Vision 2030」に向けた社内の構造・意識改革

資本政策

- 株主還元の強化（安定的な株主還元の継続）
- 資本コスト経営の徹底
～キャッシュ・コンバージョン・サイクル全体の改善など～

経営全般

SDGs視点でのサステナブルな経営の取り組みの推進・強化

- ESG・SDGs視点での経営を通じた事業機会の拡大
- マテリアリティ（SDGs）の特定、マテリアリティに関連する取り組みの強化
- DXの推進、業務効率化による働き方改革
- コンプライアンス経営の継続・強化
- リスクマネジメントの強化

サステナブルな経営への取り組み

- 気候変動対策
 - 石炭ボイラーのエネルギー転換などによる2030年のCO2排出量削減目標設定と2050年カーボンニュートラルへの挑戦
 - TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の開示準備
- マテリアリティ(重要課題)に関する取り組み
 - 8つの最重要課題への取り組みとKPI(重要業績評価指標)の策定
- 人権デュー・デリジェンスへの取り組み
 - 人権方針の策定完了
- 健康経営への取り組み
 - 健康経営KPIの策定完了

8つの最重要課題

- 気候変動・環境負荷低減
- 技術開発力
- サプライチェーン・マネジメント
- 労働安全衛生・保安防災
- ダイバーシティ&インクルージョン
- BCP、リスクマネジメント
- コーポレート・ガバナンス
- DXの推進、業務効率化による働き方改革

2021年度決算のトピックス

- **無機化学事業**は、自動車および建設用途向けなどの需要回復が進むとともに、電子部品材料分野の需要が拡大して**増収**。操業度の改善などにより、**増益**。
- **有機化学事業**の主力農薬は、安定的な農業生産を維持するために不可欠な資材として、引き続き海外販売を中心に堅調に推移、異常気象の影響もなく、**増益**。

2021年度決算 連結業績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

● 売上高 1,109億円

(前期比 91億円増)

■ 営業利益 115億円

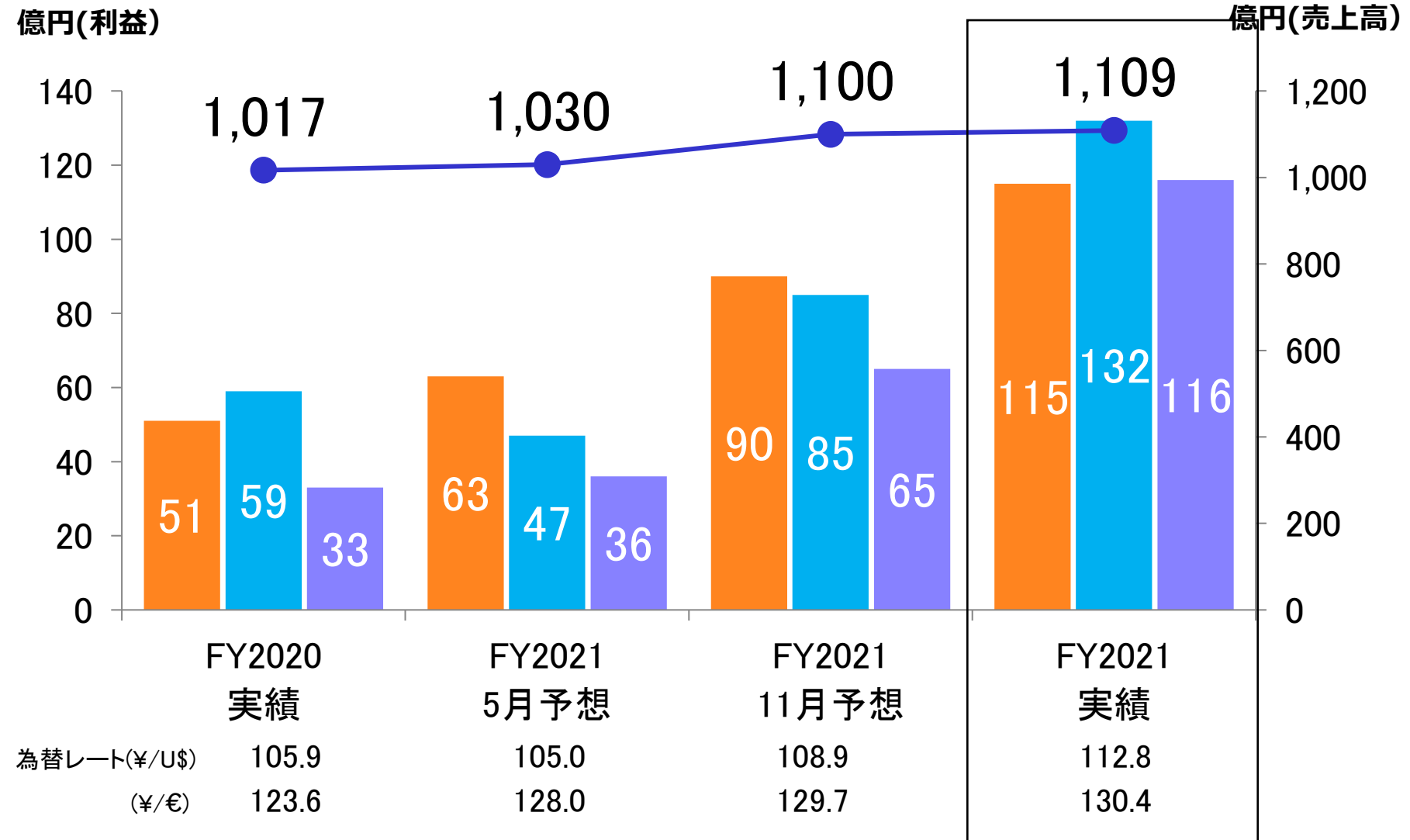
(前期比 63億円増)

■ 経常利益 132億円

(前期比 73億円増)

■ 純利益 116億円

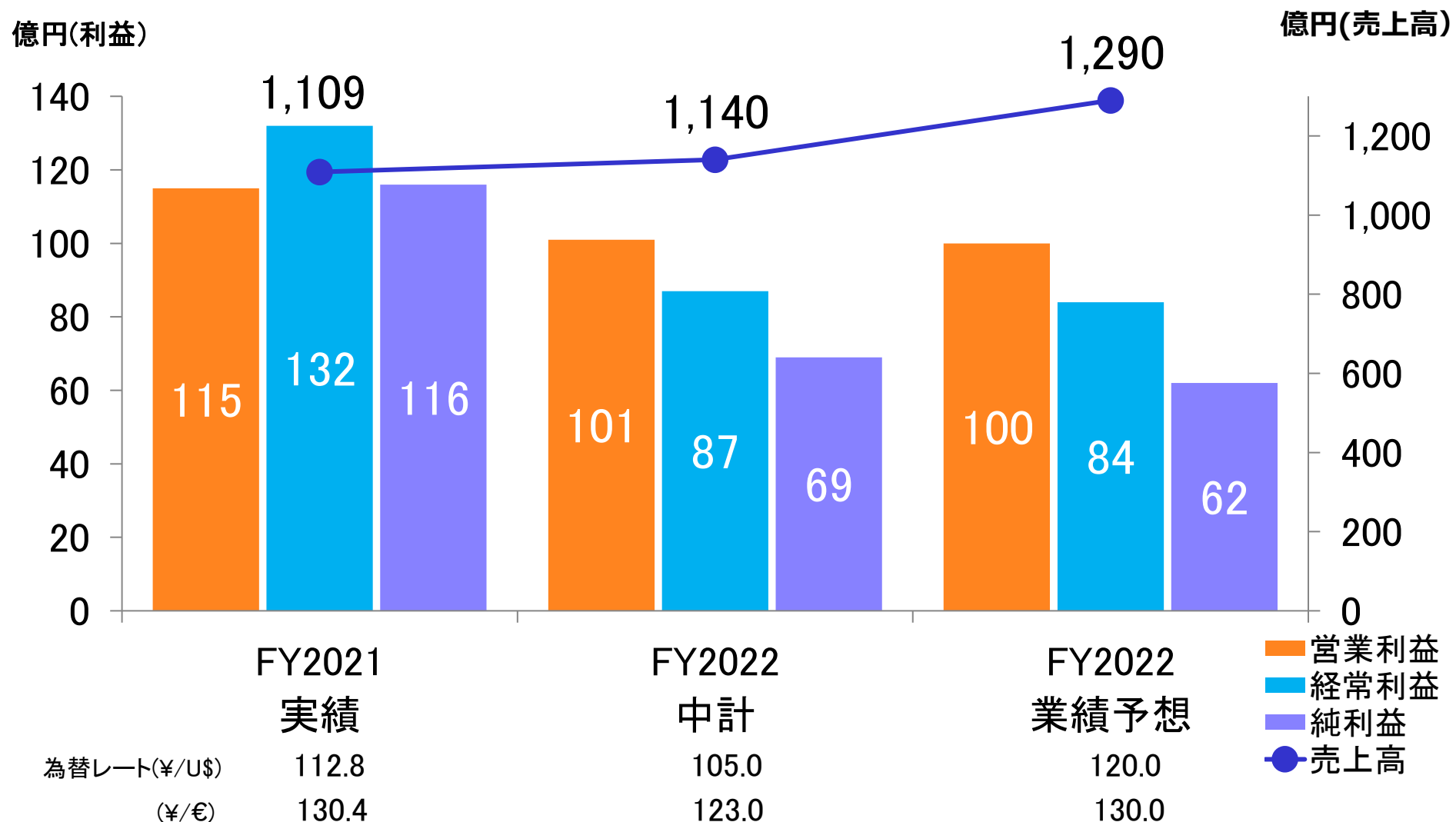
(前期比 83億円増)



2022年度業績予想のトピックス

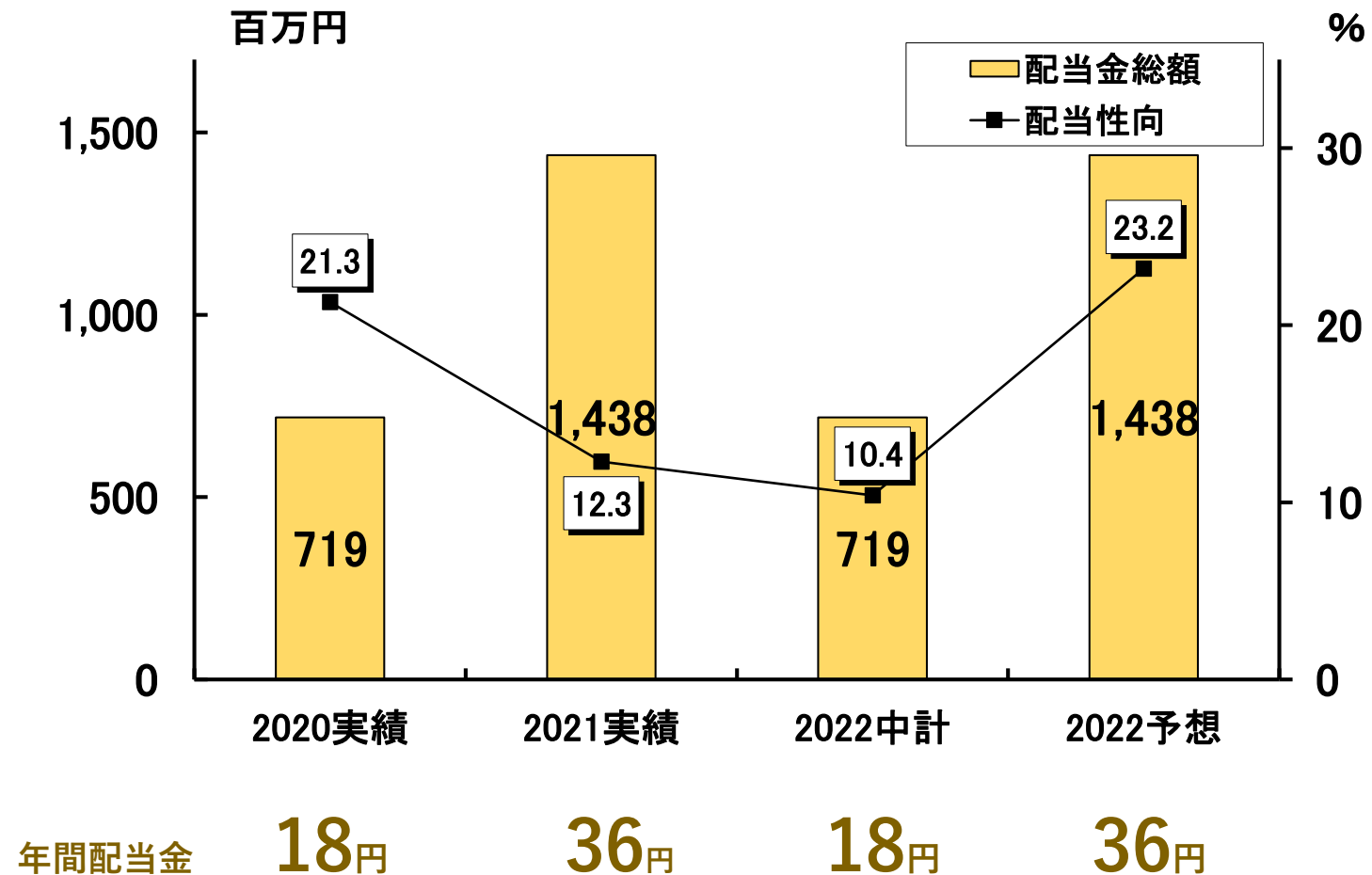
- **無機化学事業**では、ウクライナ問題による影響などにより、酸化チタンの原料鉱石の需給タイト化による価格上昇、および原燃料価格の高騰が予想されることから、引き続き国内外での酸化チタンおよび機能性材料の販売価格改定に取り組む。
- **有機化学事業**の主力農薬は、欧米で殺菌剤の販売が好調であるなど、引き続き海外販売を中心に堅調な販売が見込まれる。一方、原燃料価格高騰の影響により製造コストが上昇する見通し。本年度は、来年度以降の価格転嫁を進めるとともに、インド製造委託先での新プラント稼働などコスト削減対策を進める。
- なお、足下では、「半導体などの部材の調達難」や「海上コンテナの手配難」などにより引き続きサプライチェーンに混乱をきたすとともに、「中国経済の減速」や「同国でのCOVID-19対策による行動制限」、「円安の急激な進行」などの不確定要因が多発し、予断を許さない状況である。

2022年度 通期連結業績予想



株主還元

- 企業価値を高めるとともに、株主の皆様へ利益を還元していくことを経営の最重要政策の一つと位置付ける。
- 配当は、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案しながら業績に応じた安定的な配当の継続を基本とする。
- このような配当方針に基づき、業績予想の修正を勘案し、2022年3月期の期末配当については、直近の配当予想(25円)から11円増配し、前期実績の2倍の1株当たり36円に修正する。



2021年度 決算概要

為替レート	2020年度 実績	2021年度 実績
米ドル（円/U\$）	105.9	112.8
ユーロ（円/Eur）	123.6	130.4

2021年度 決算概要

- 原燃料の高騰を中心に厳しい事業環境に直面するも、為替レートが期末に向けて想定以上の円安となり、増収増益
- 直近の配当予想25円/株を36円/株に増配する議案を定時株主総会へ付議

(単位;億円)	2020年度 実績	2021年度 実績	増減	2021年度予想 (2021年11月)	差異
売上高	1,017	1,109	91	1,100	9
営業利益	51	115	63	90	25
経常利益	59	132	73	85	47
純利益	33	116	83	65	51
配当(円/株)	18	36	18	25	11

2021年度 事業別売上高・営業利益

<無機化学事業>

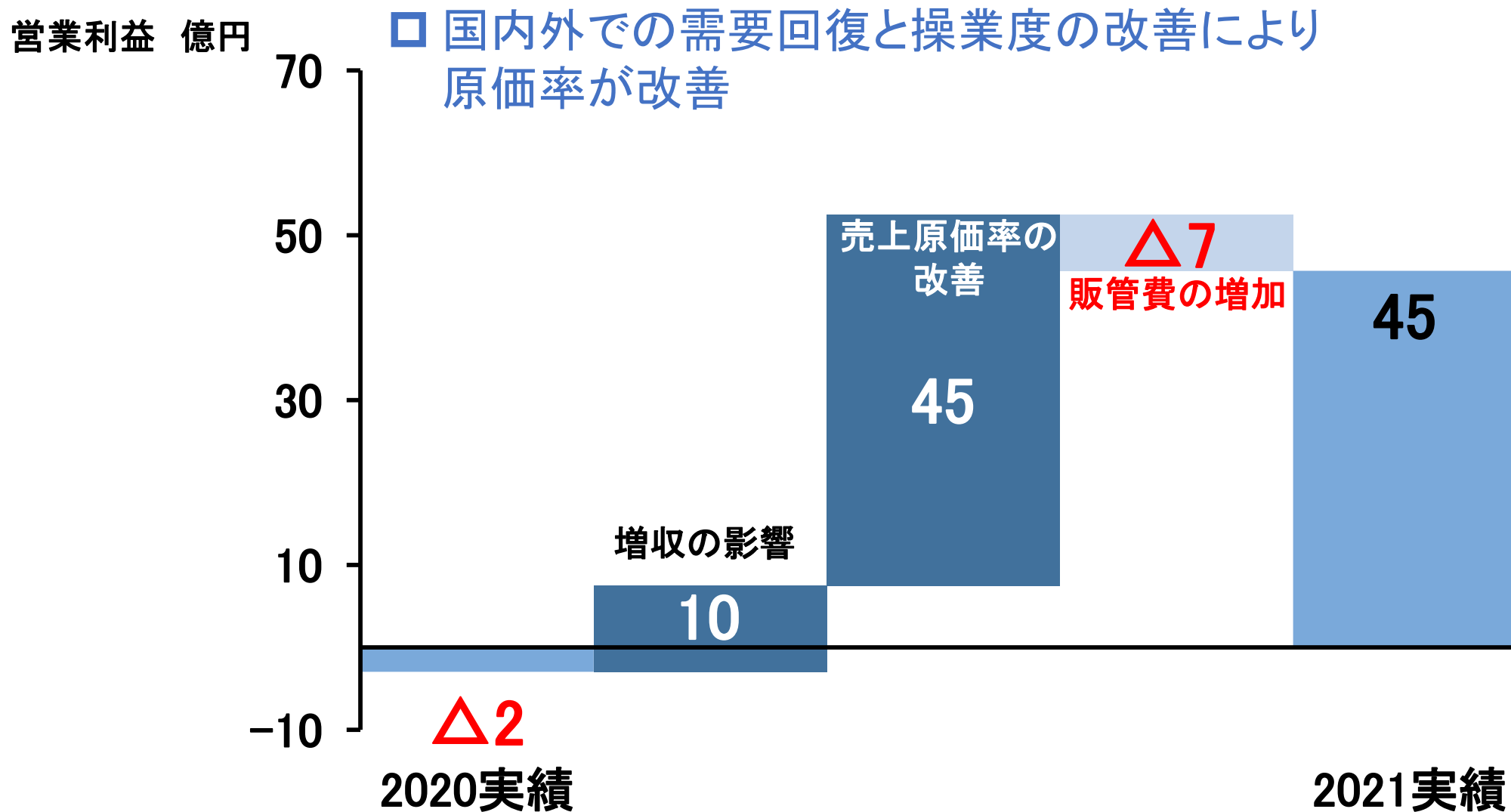
- 酸化チタンは、国内外ともに自動車および建設関連を中心に需要が堅調に推移した。原燃料の価格高騰を受け、国内外で価格改定に取り組んだ。
- 機能性材料は、電子部品材料が自動車関連や5G関連などで需要が増大したことに加え、導電性材料が自動車関連を中心に堅調に推移するとともに用途拡大に取り組んだ。

<有機化学事業>

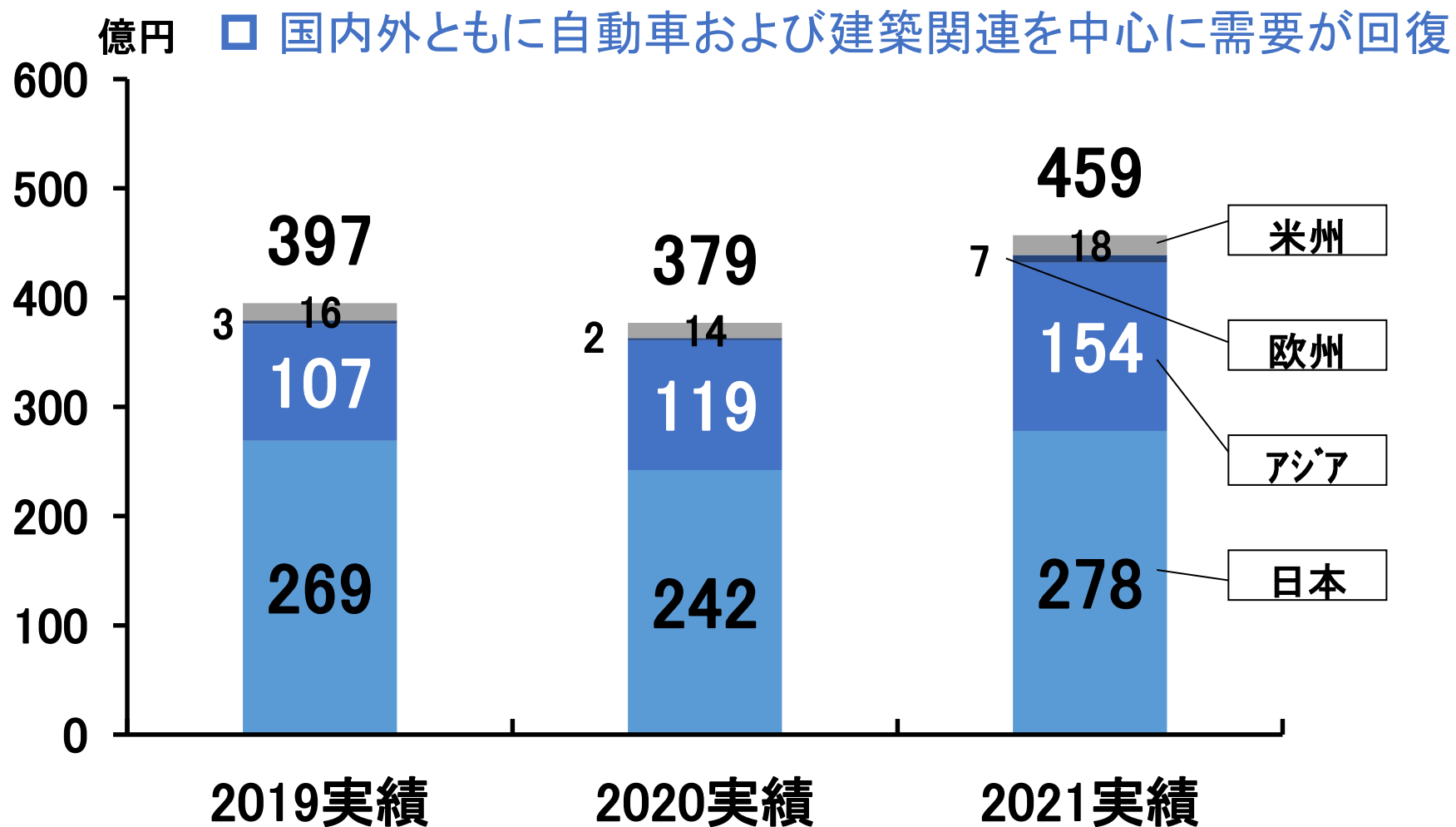
- 主力農薬の販売は、COVID-19の影響や天候異常などの影響を大きく受けることなく、海外販売が堅調に推移した。欧州では殺菌剤や除草剤が好調だった。米州でも、南米の穀物生産拡大などにより殺菌剤が好調で、北米でも新規除草剤の好調に加え、流通在庫の改善などにより堅調に推移した。
- 動物用医薬品、医薬の原薬販売は前年度並み。

(単位;億円)	2020年度 実績		2021年度 実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	498	△ 2	598	45	100	48
有機化学事業	483	51	482	66	△ 0	14
その他	35	3	27	3	△ 7	0
合計	1,017	51	1,109	115	91	63

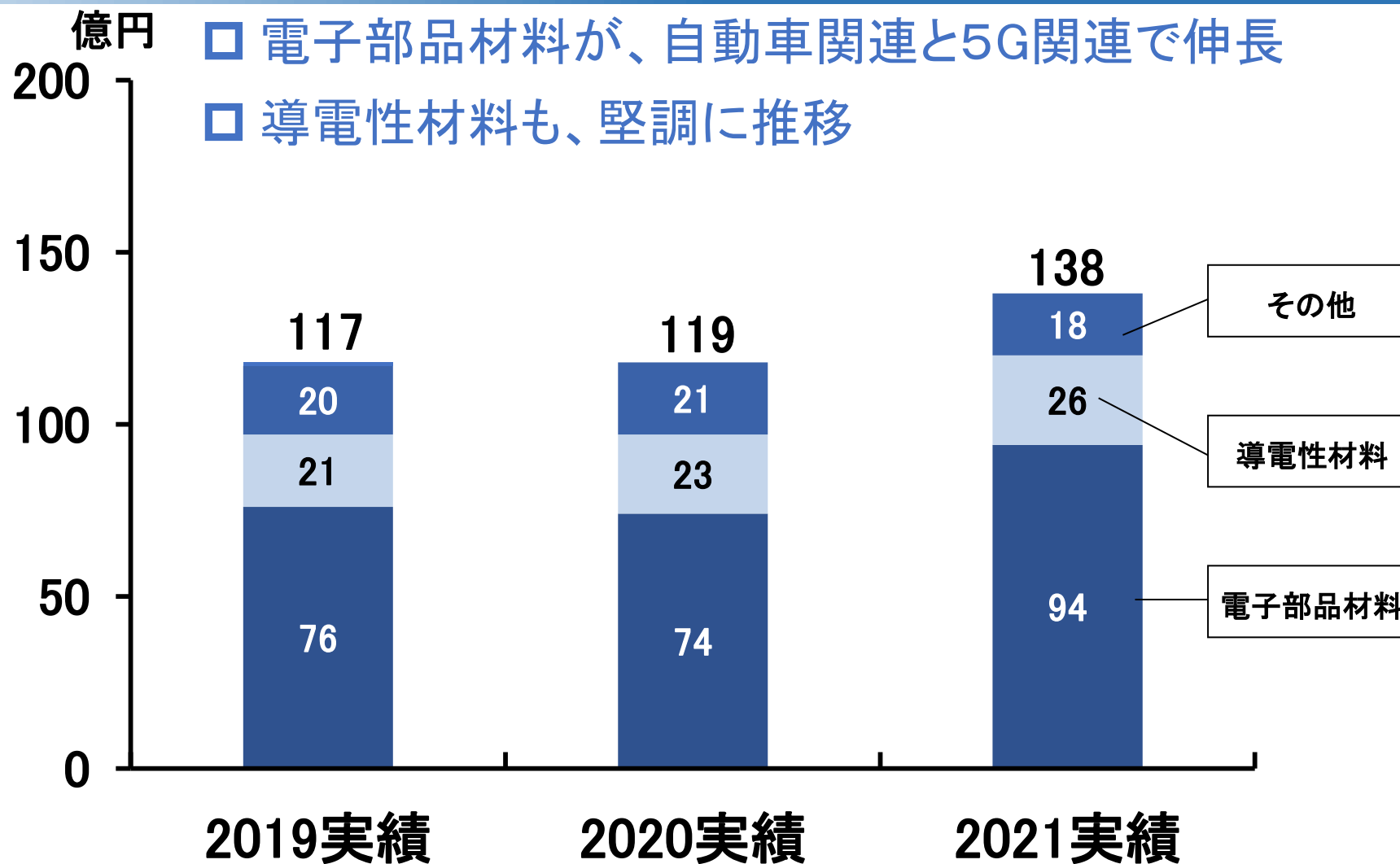
無機化学事業 営業利益増減要因



酸化チタン 地域別販売実績

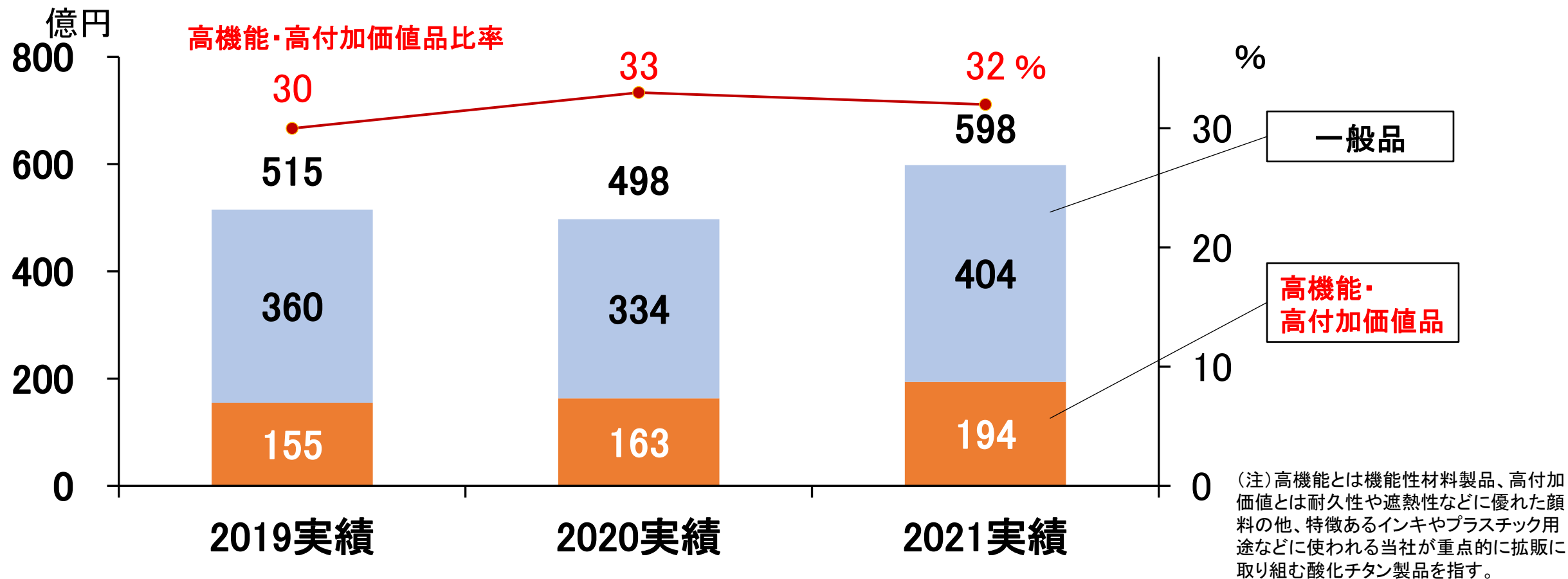


機能性材料 材料別販売実績



無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

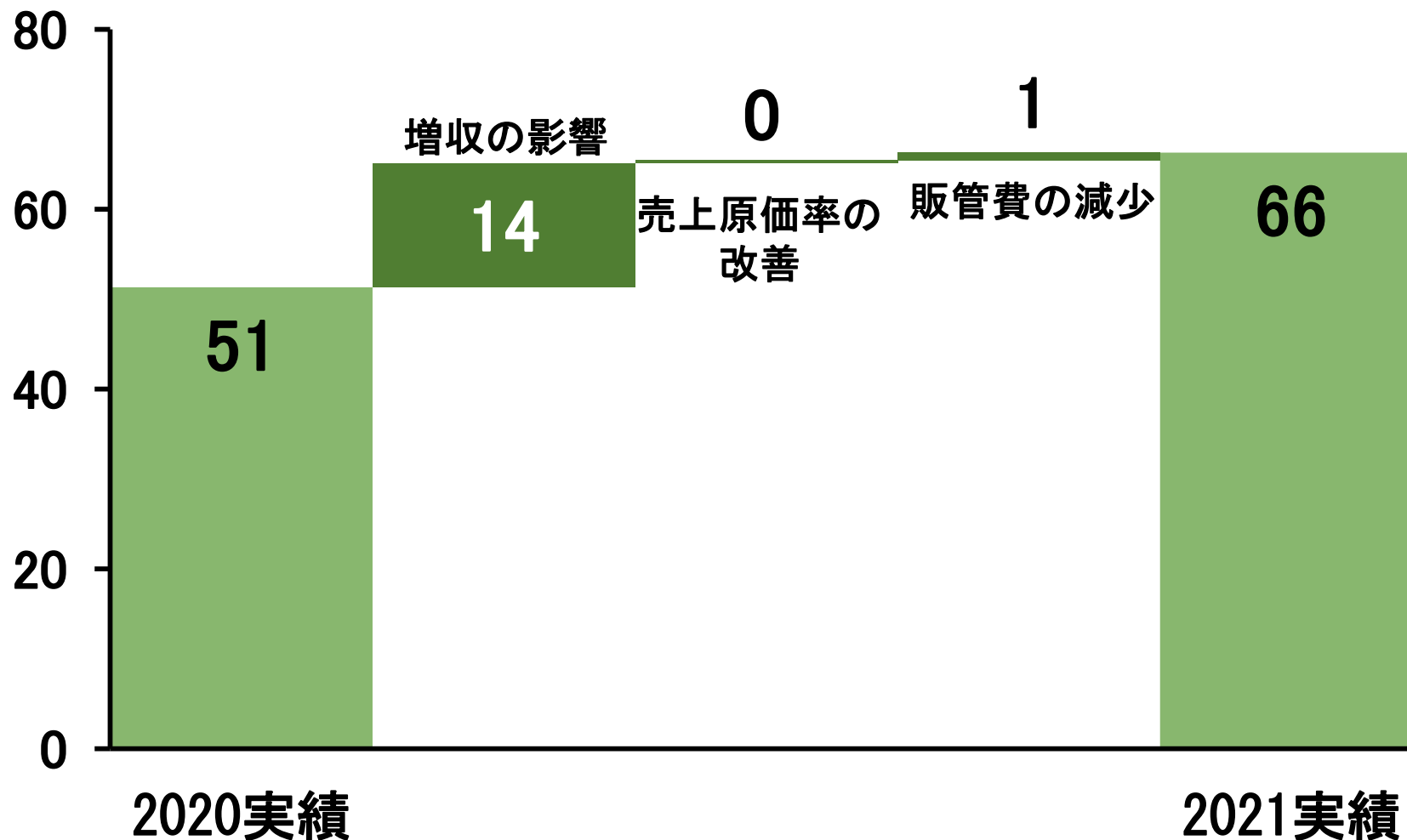
□ 高機能・高付加価値品の販売は順調に増加



有機化学事業 営業利益増減要因

営業利益 億円

□ 主力の農薬販売は海外向けを中心に順調に推移

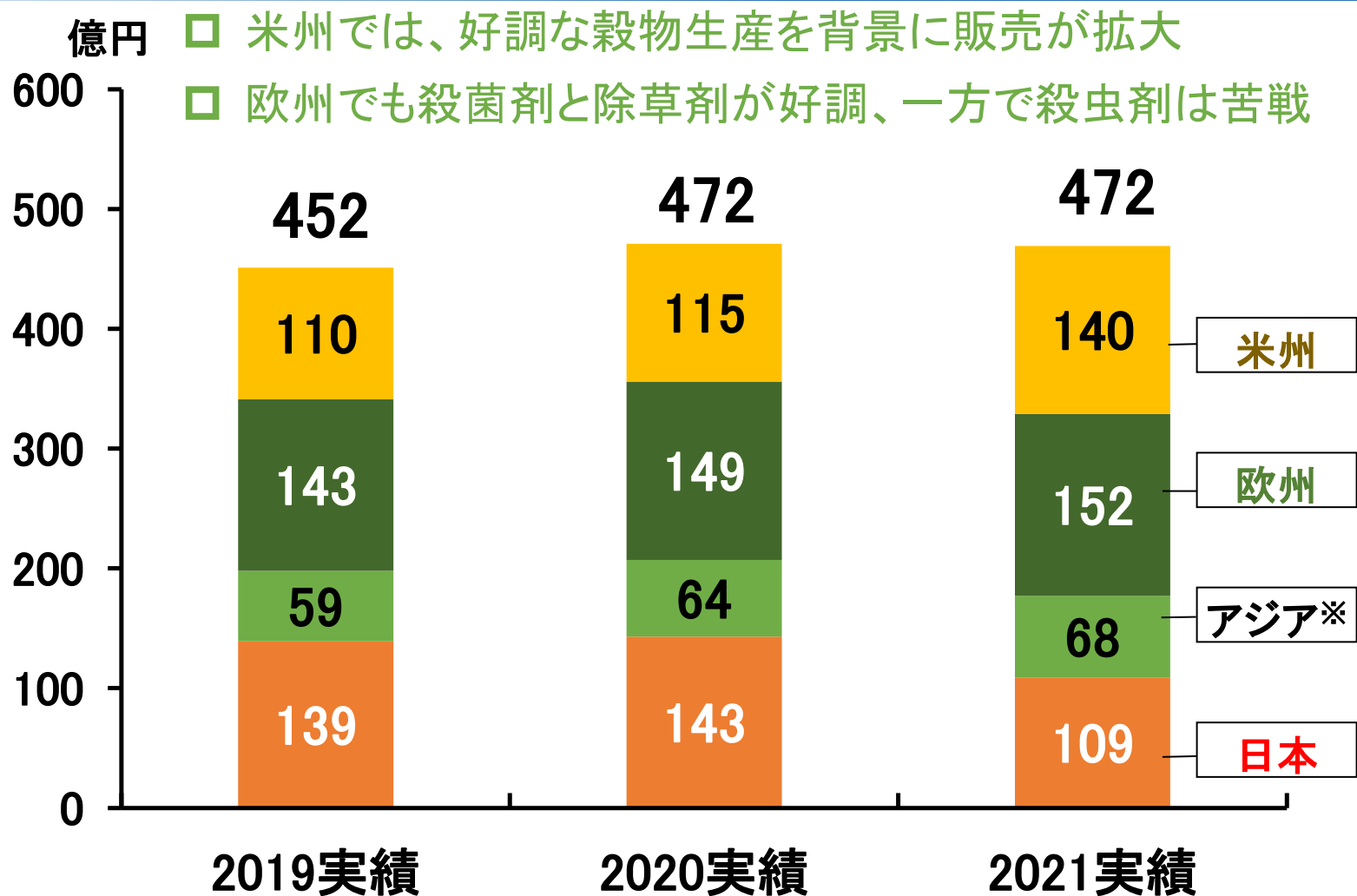


農薬 地域別販売実績

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

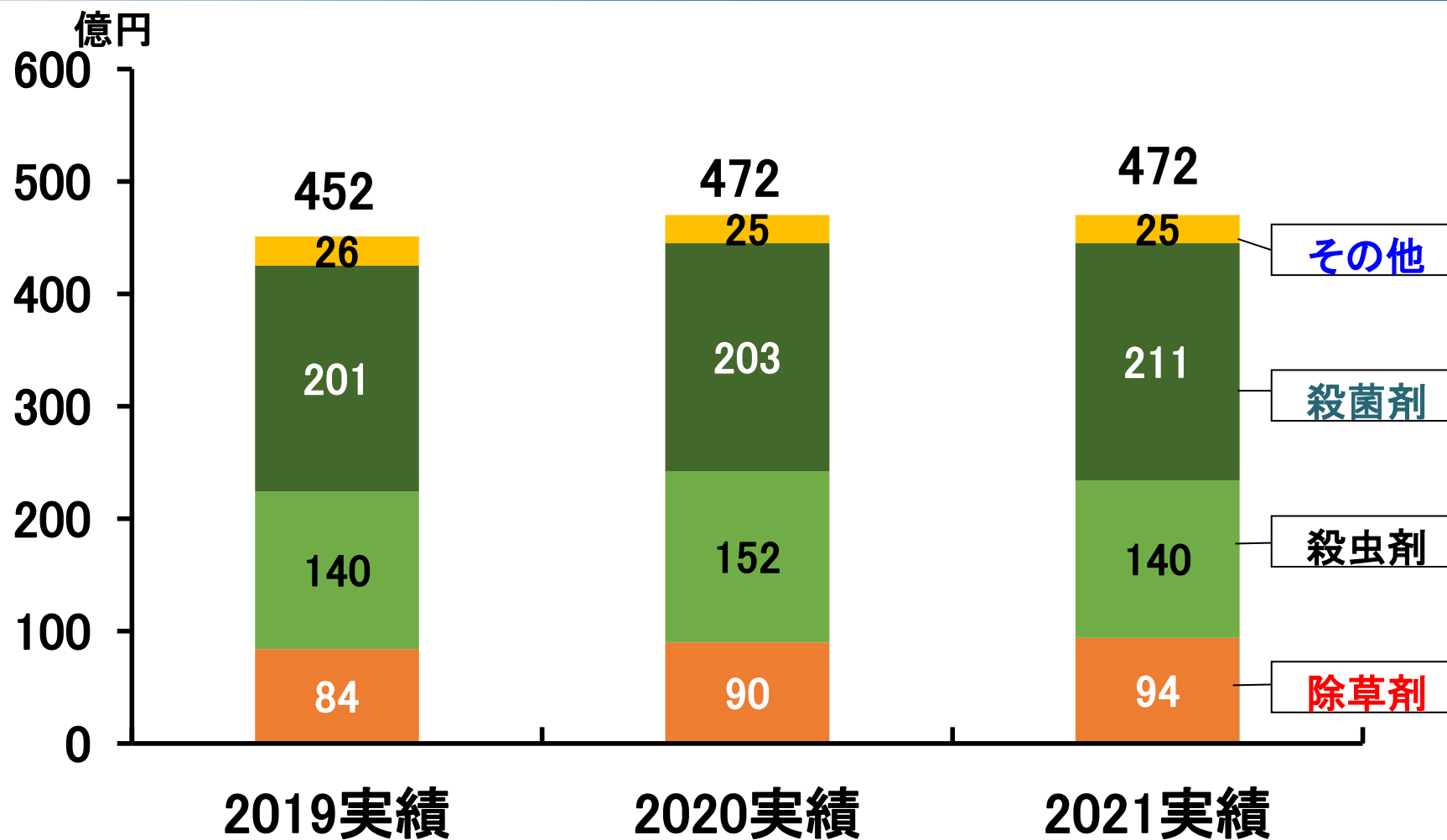
有機化学事業



※アジアには、大洋州を含む。

■ 2021年度は収益認識基準の適用で
△30億円の売上高
差異が発生

農薬 用途別販売実績



農薬 剤別販売実績

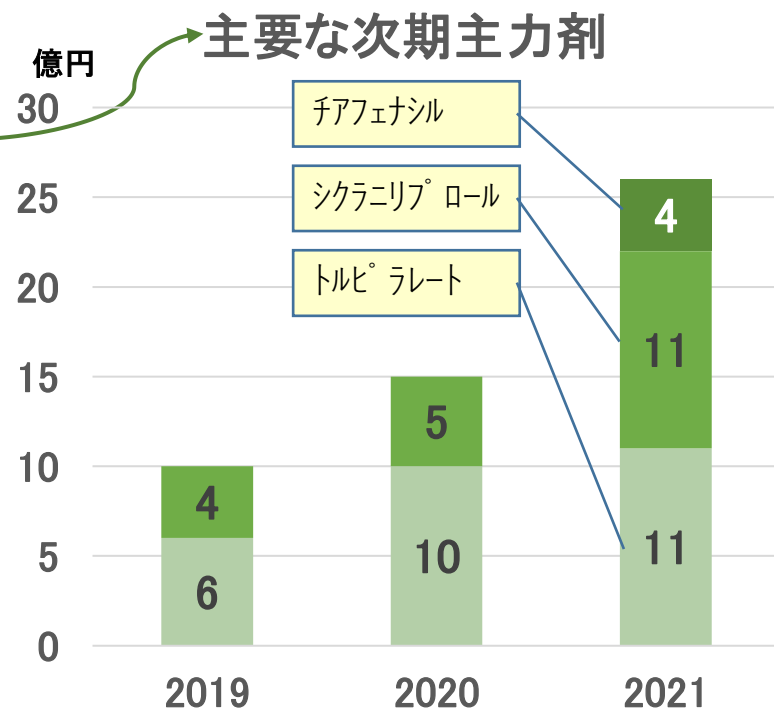
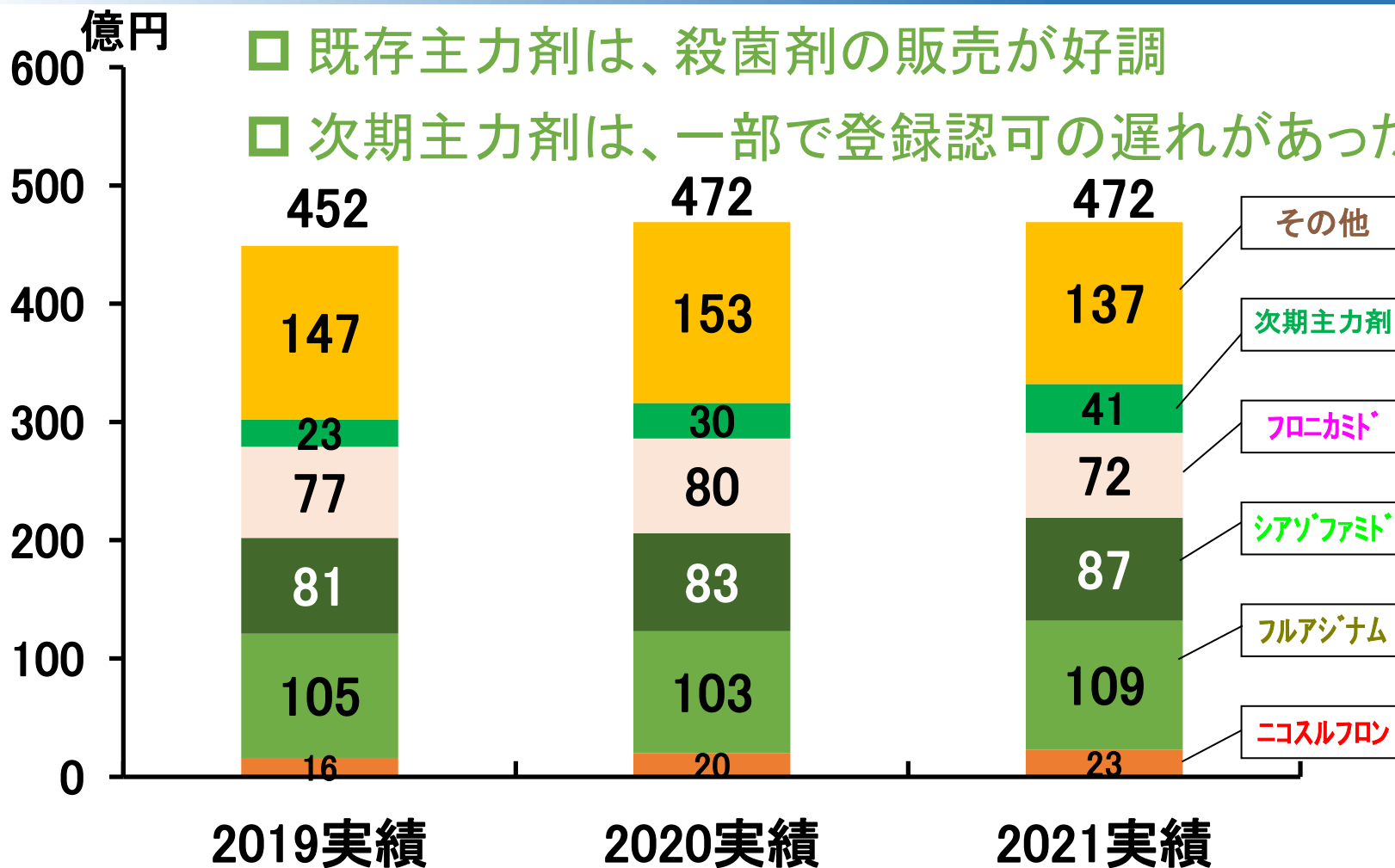
Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業

□ 既存主力剤は、殺菌剤の販売が好調

□ 次期主力剤は、一部で登録認可の遅れがあったが、米州を中心に拡大



営業外損益・特別損益

＜営業外損益＞

□ 期末にかけ円安が進み為替差益を計上

科目 (億円)		2020年度 実績	2021年度 実績	増減
営業外	金融収支	△ 2	△ 3	△ 0
	為替差損益	5	15	9
	持分法利益	0	5	4
	その他	3	△ 0	△ 4
	計	7	17	9

＜特別損益＞

□ 持分法適用関連会社の株式交換にともなう持分変動利益を計上
□ 投資有価証券の減損処理を実施

科目 (億円)		2020年度 実績	2021年度 実績	増減
特別損益	固定資産処分損	△ 6	△ 9	△ 2
	事業撤退損	△ 9	—	9
	減損損失	△ 4	△ 1	2
	債務免除益	—	5	5
	持分変動利益	—	※1 27	27
	投資有価証券評価損	—	※2 △ 23	△ 23
	その他	0	0	0
	計	△ 20	△ 1	18

※1) 持分変動利益…株式交換により当社の持分法適用関連会社がBelchim Crop Protection N.V.から三井物産(株)欧州子会社Certis Europe B.V.になりました。

※2) 投資有価証券評価損…当社の保有する農薬販売会社の投資有価証券の減損処理を行いました。

2021年度末 貸借対照表

- 当期末総資産は、前期末比＋57億円の1,857億円。現預金が＋11億円、棚卸資産が＋30億円、投資有価証券が＋12億円などによる
- 有利子負債は前期末比△96億円の504億円、買掛債務は＋32億円の177億円
- 純資産は、利益剰余金が前期末比＋107億円などにより＋123億円の918億円

科目 (億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	増減
流動資産	1,170	1,213	43
現預金	259	270	11
売掛債権	342	337	△ 4
棚卸資産	544	574	30
その他	23	30	7
固定資産	630	643	13
有形固定資産	471	465	△ 5
無形固定資産	5	10	4
投資その他資産	153	168	14
資産合計	1,800	1,857	57

科目 (億円)	2021年 3月末	2022年 3月末	増減
負債	1,005	938	△ 66
買掛債務	144	177	32
有利子負債	601	504	△ 96
引当金	29	29	△ 0
退職給付に係る負債	126	130	3
その他	103	97	△ 5
純資産	795	918	123
株主資本	811	919	107
その他包括利益累計額	△ 16	△ 0	16
負債・純資産合計	1,800	1,857	57

2021年度 キャッシュフロー計算書

- 営業キャッシュフローが前期比117億円の収入増となるなどしたことによりF.C.F.は121億円

(単位;億円)	2020年度 実績	2021年度 実績	増減
営業キャッシュフロー	47	165	117
税金等調整前当期純利益	39	130	91
減価償却費及びその他償却費	50	46	△ 3
運転資金等	△ 39	△ 2	36
法人税等支払額	△ 3	△ 9	△ 6
投資キャッシュフロー	△ 61	△ 43	18
固定資産の取得・売却	△ 60	△ 44	16
投資有価証券の取得	△ 0	△ 0	△ 0
投融資資金等	△ 0	1	1
財務キャッシュフロー	63	△ 116	△ 179
借入金・社債増減等	71	△ 108	△ 180
自己株式取得	△ 0	△ 0	△ 0
配当金支払額	△ 7	△ 7	0
現金及び現金同等物に係る換算額	0	5	4
現金及び現金同等物の増減額	50	11	△ 38
現金及び現金同等物の期末残高	259	270	11

2022年度 業績予想

為替レート	2021年度 実績	2022年度 予想
米ドル（円/U\$）	112.8	120.0
ユーロ（円/Eur）	130.4	130.0

2022年度 業績予想

- 有機化学/無機化学の両事業とも増収を見込むものの、
原燃料価格の高騰などにより、減益の見通し

(単位;億円)	2021年度 実績	2022年度 予想	増減
売上高	1,109	1,290	180
営業利益	115	100	△ 15
経常利益	132	84	△ 48
純利益	116	62	△ 54

2022年度 業績予想 (事業別売上高・営業利益)

- 無機化学事業は、引き続き堅調に推移する見通し
- 有機化学事業は、需要が拡大する一方でコスト増により減益の見通し

(単位; 億円)	2021年度 実績		2022年度 予想		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
無機化学事業	598	45	716	44	117	△ 1
有機化学事業	482	66	547	54	63	△ 12
その他	27	3	27	2	△ 0	△ 1
合計	1,109	115	1,290	100	180	△ 15

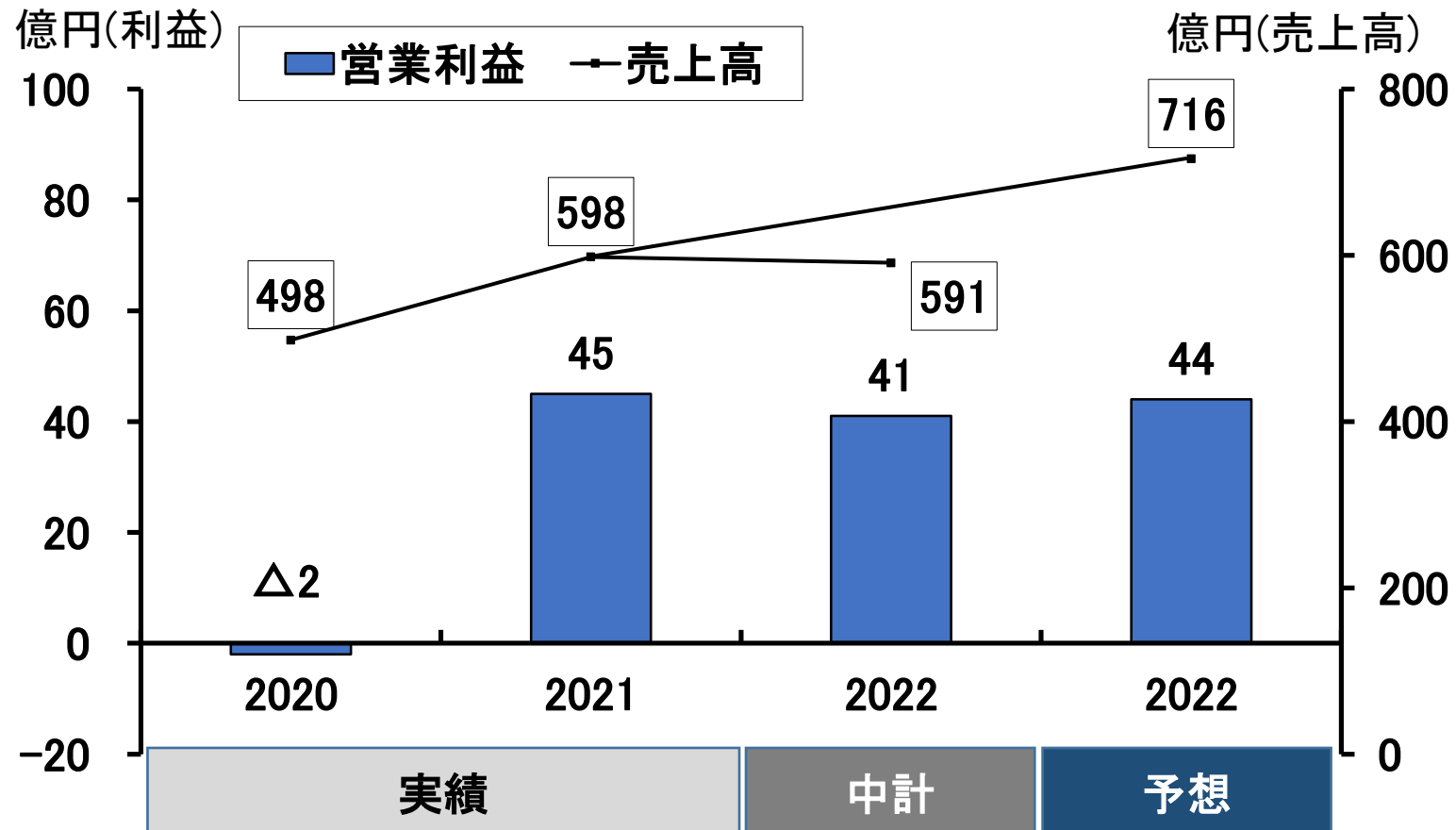
経営指標

	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 予想
1株当り当期純利益(円)	84.4	292.5	155.2
自己資本利益率(ROE)	4.3%	13.6%	6.6%
総資産営業利益率(ROA)	2.9%	6.3%	5.4%
売上高営業利益率	5.1%	10.4%	7.8%
自己資本比率	44.2%	49.5%	52.7%
借入金依存度	33.4%	27.1%	23.3%

事業別 業績概要

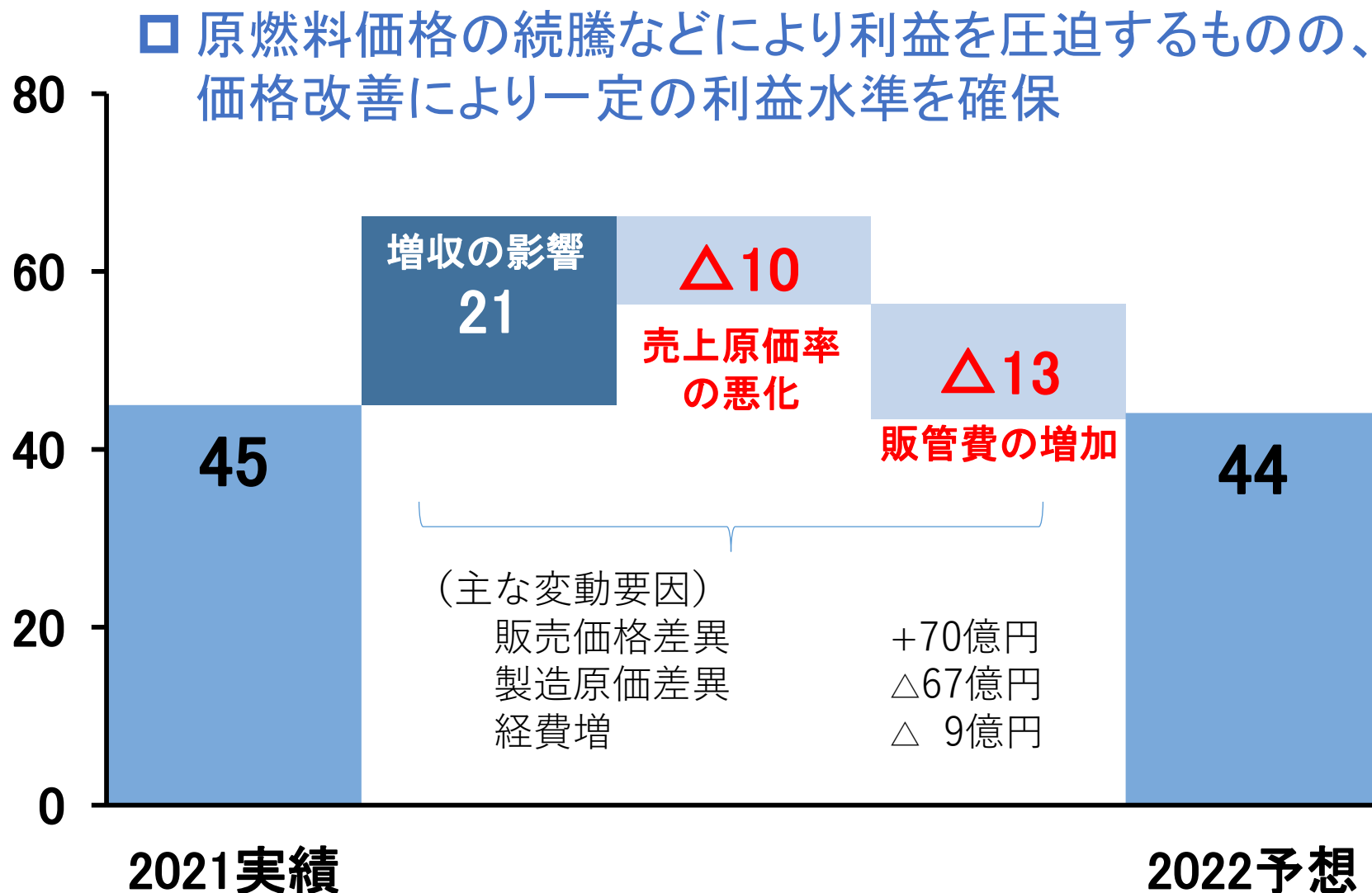
無機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し> □ 前年度より原燃料高の価格転嫁を進めてきたが、急激なコスト上昇のすべてを吸収できておらず減益の見通し

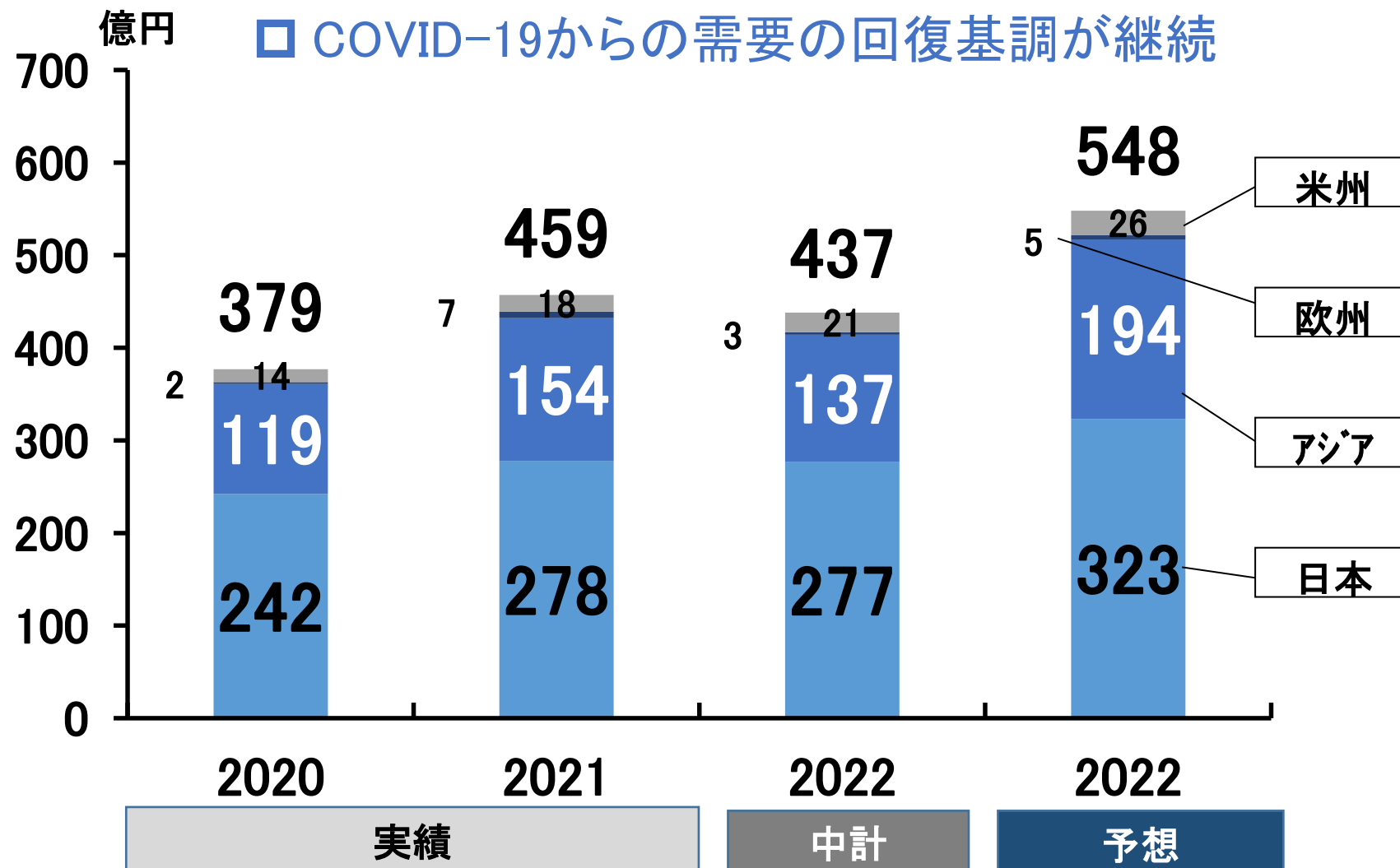


無機化学事業 営業利益増減要因

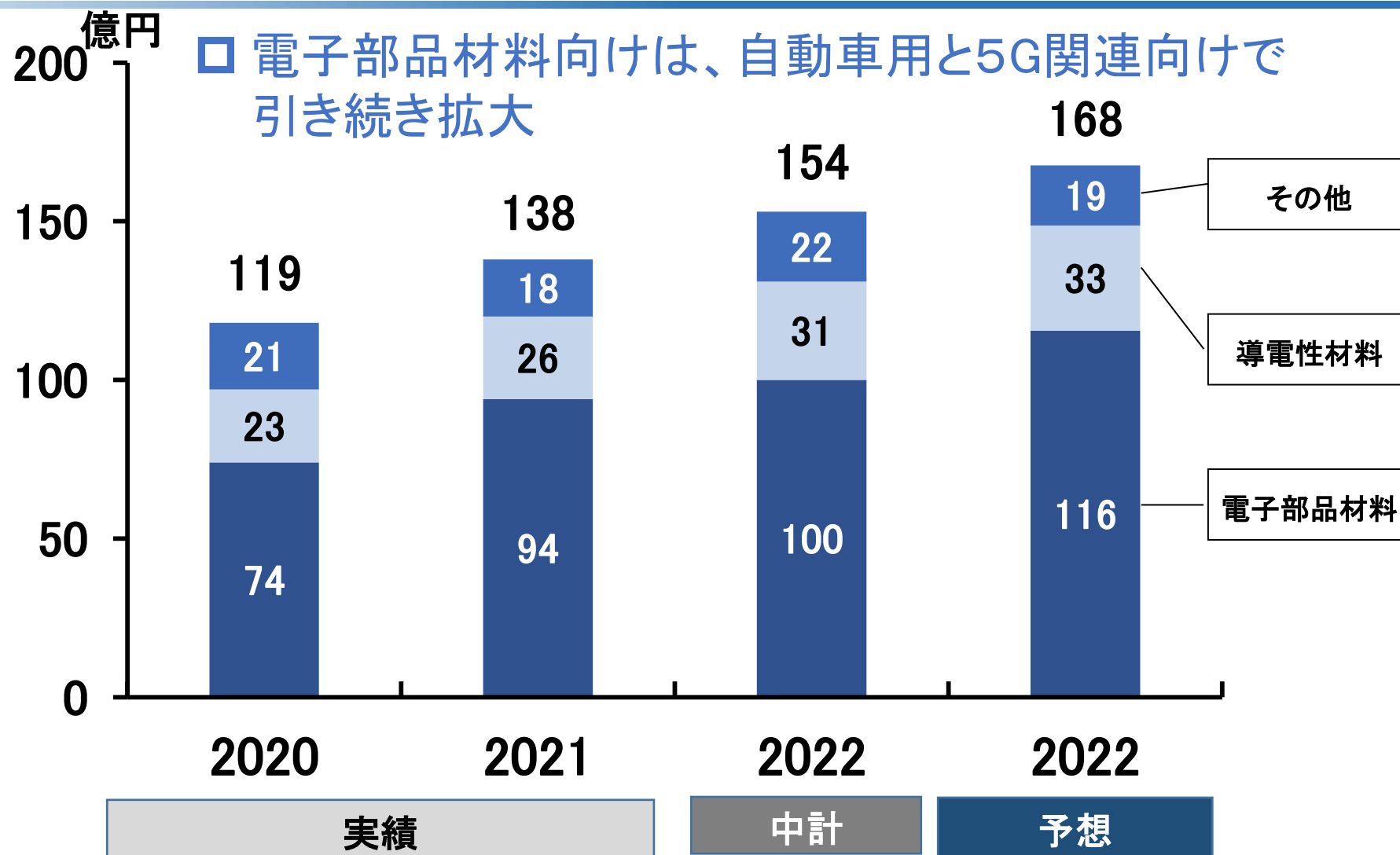
営業利益 億円



酸化チタン 地域別販売計画



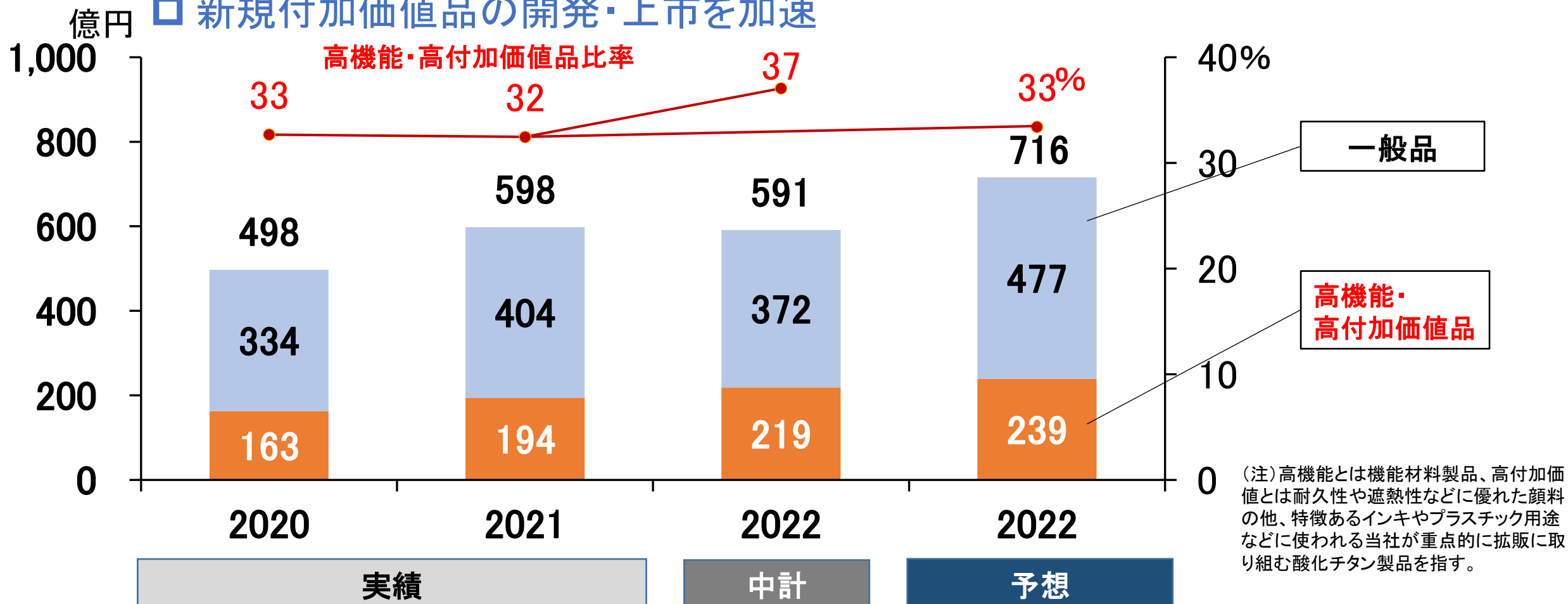
機能性材料 材料別販売計画



無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率

□ 高機能・高付加価値品をグローバル展開して販売を伸ばす

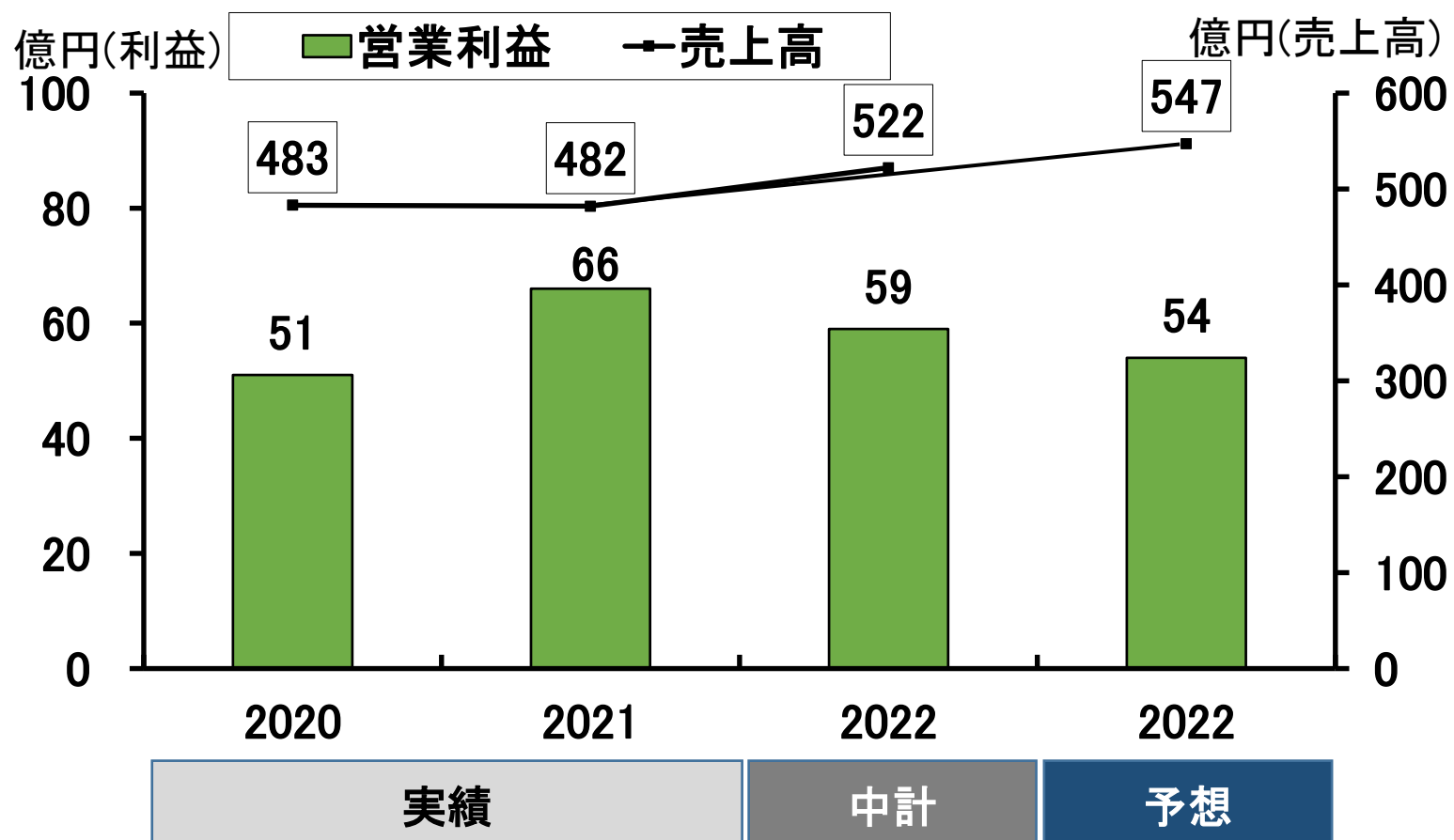
□ 新規付加価値品の開発・上市を加速



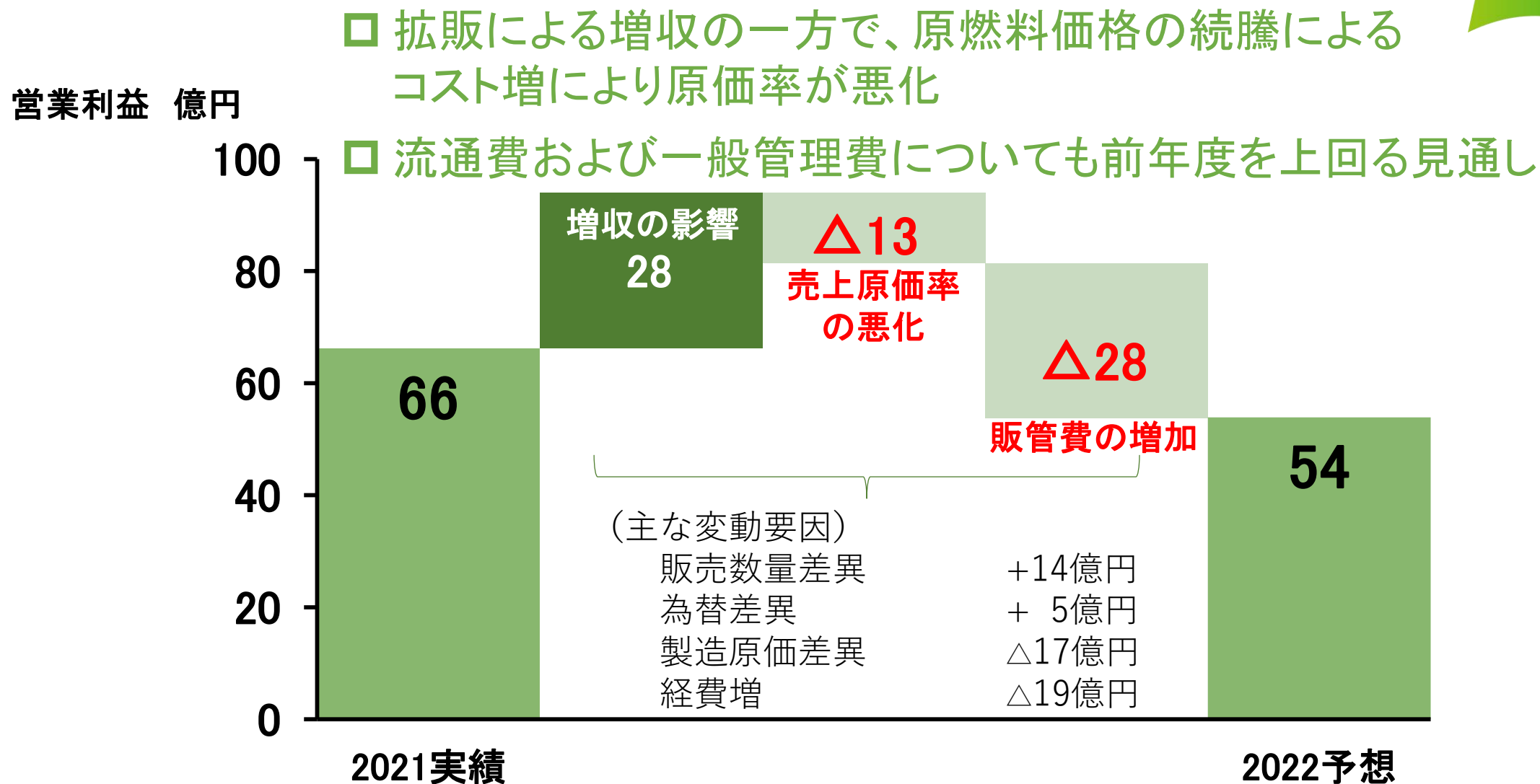
有機化学事業 業績計画

<事業環境の見通し>

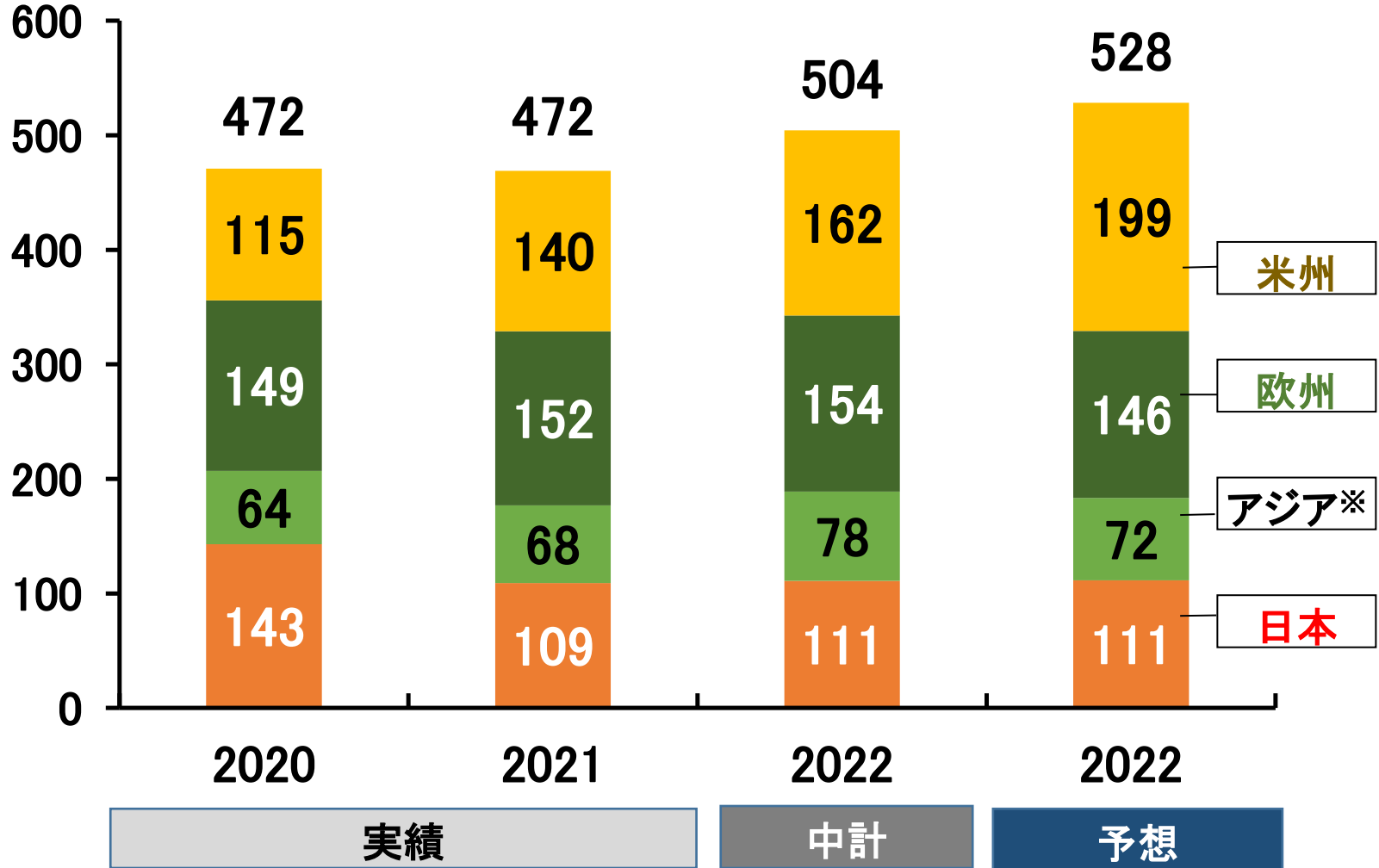
- 需要は、南米での好調な穀物生産を背景に堅調
- 原燃料価格高騰による製造コスト上昇が利益を圧迫



有機化学事業 営業利益増減要因



億円 □ 米州での好調な穀物生産により、主力殺菌剤の販売が拡大



※アジアには、大洋州を含む。

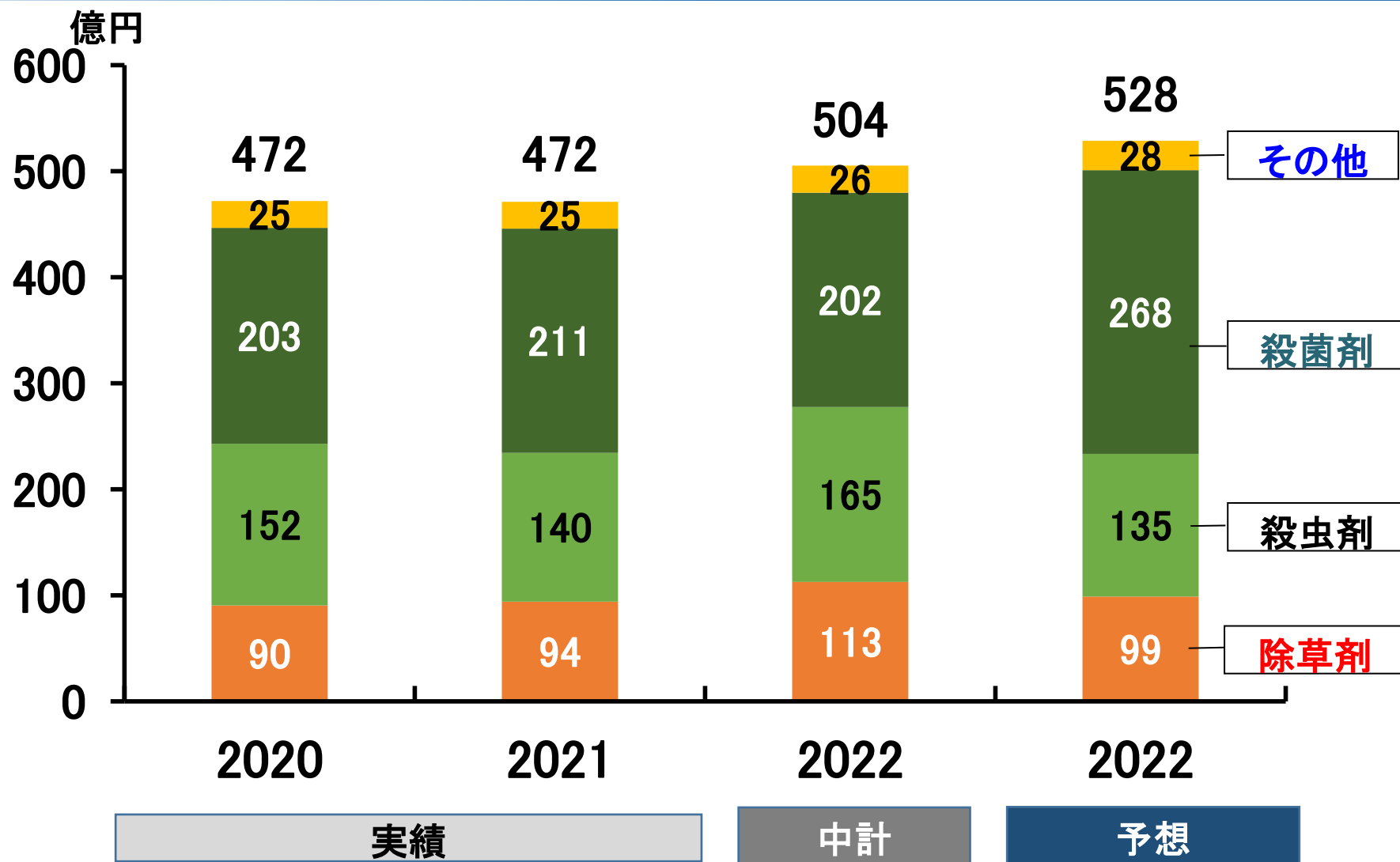
■ 2020年度と2021年度は収益認識基準の適用で△30億円の売上高差異が発生

農薬 用途別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

有機化学事業



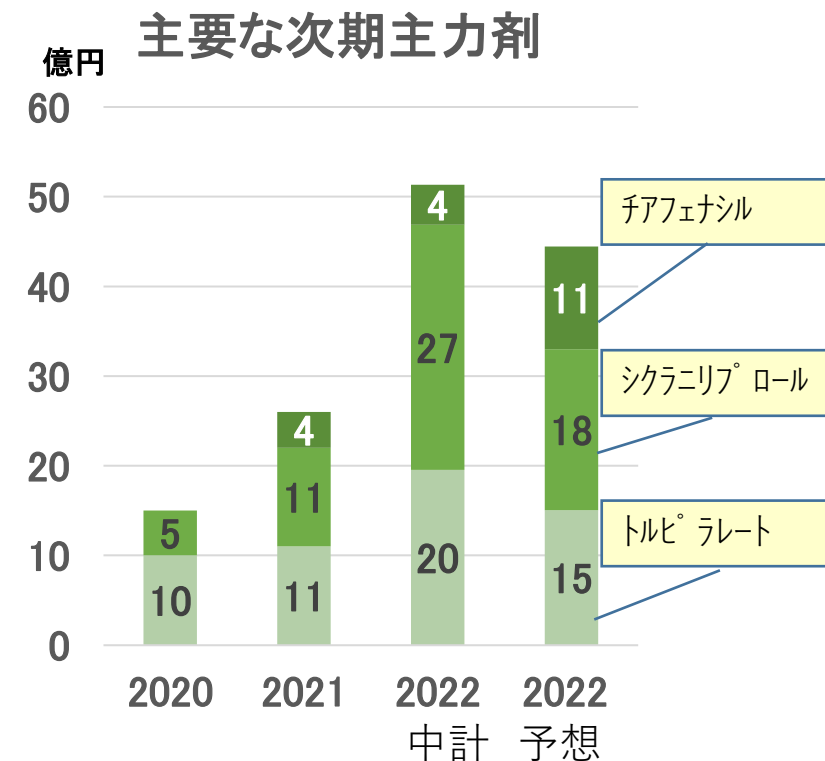
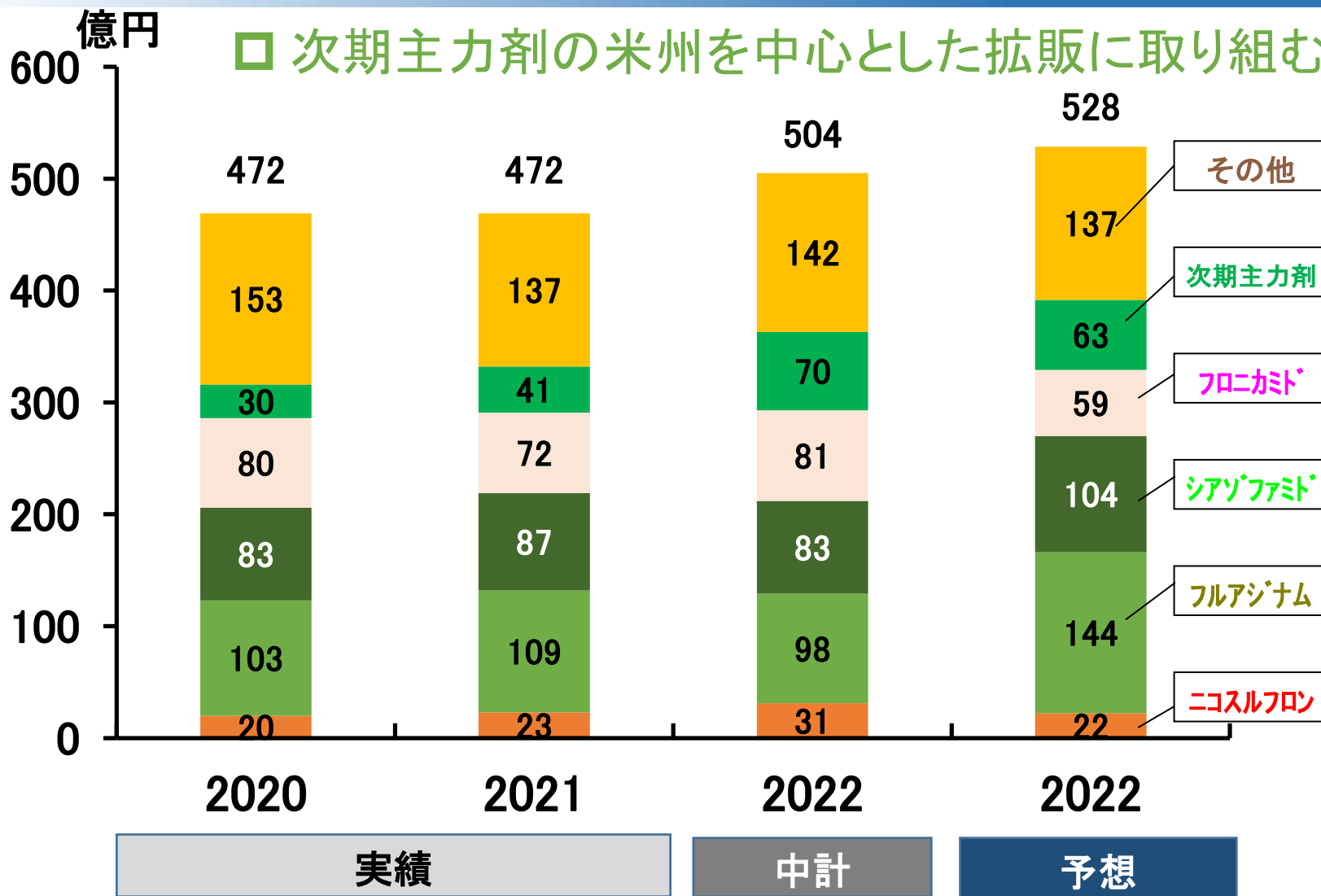
農薬 剤別販売計画

Vision
2030

「独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。」

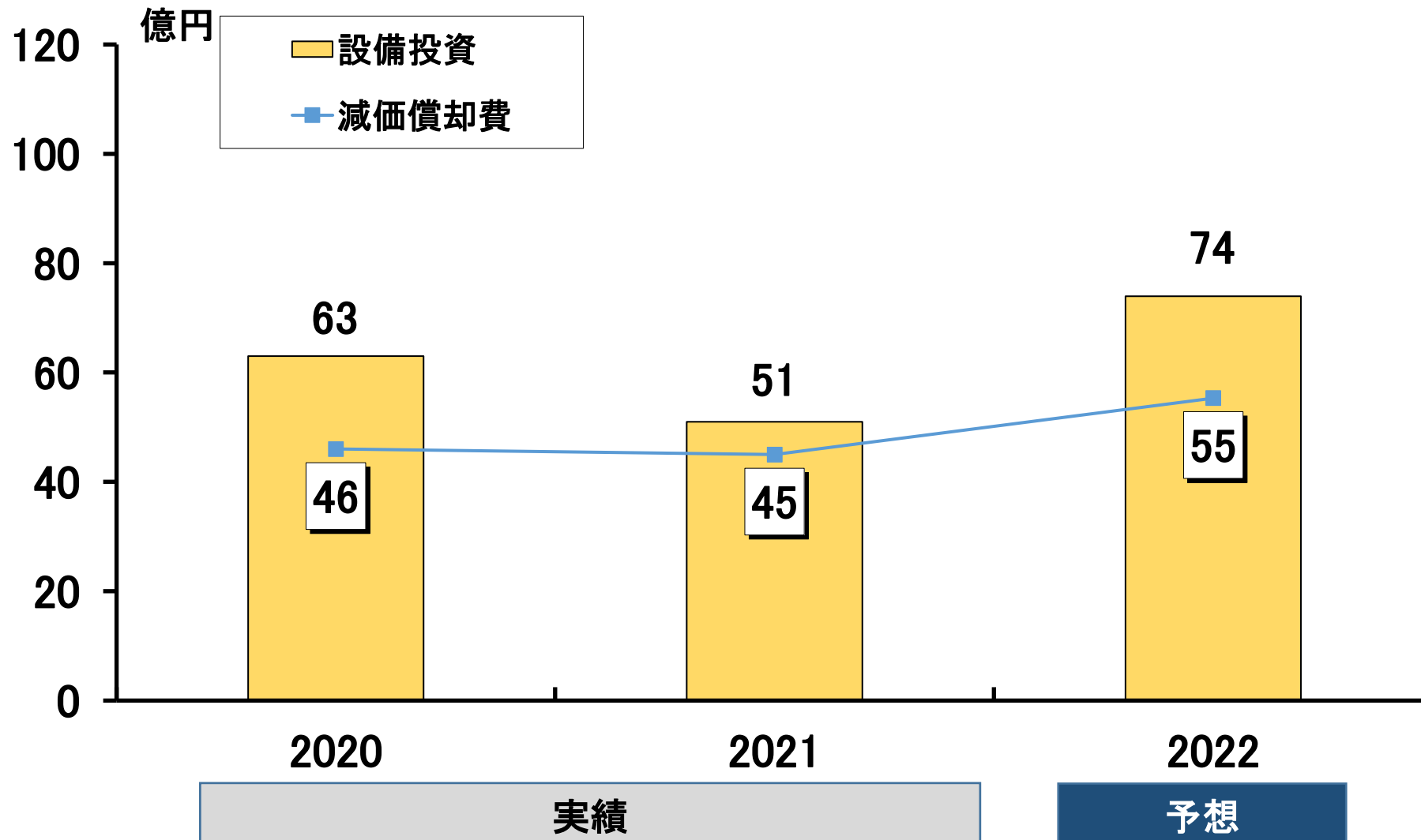
有機化学事業

□ 次期主力剤の米州を中心とした拡販に取り組む

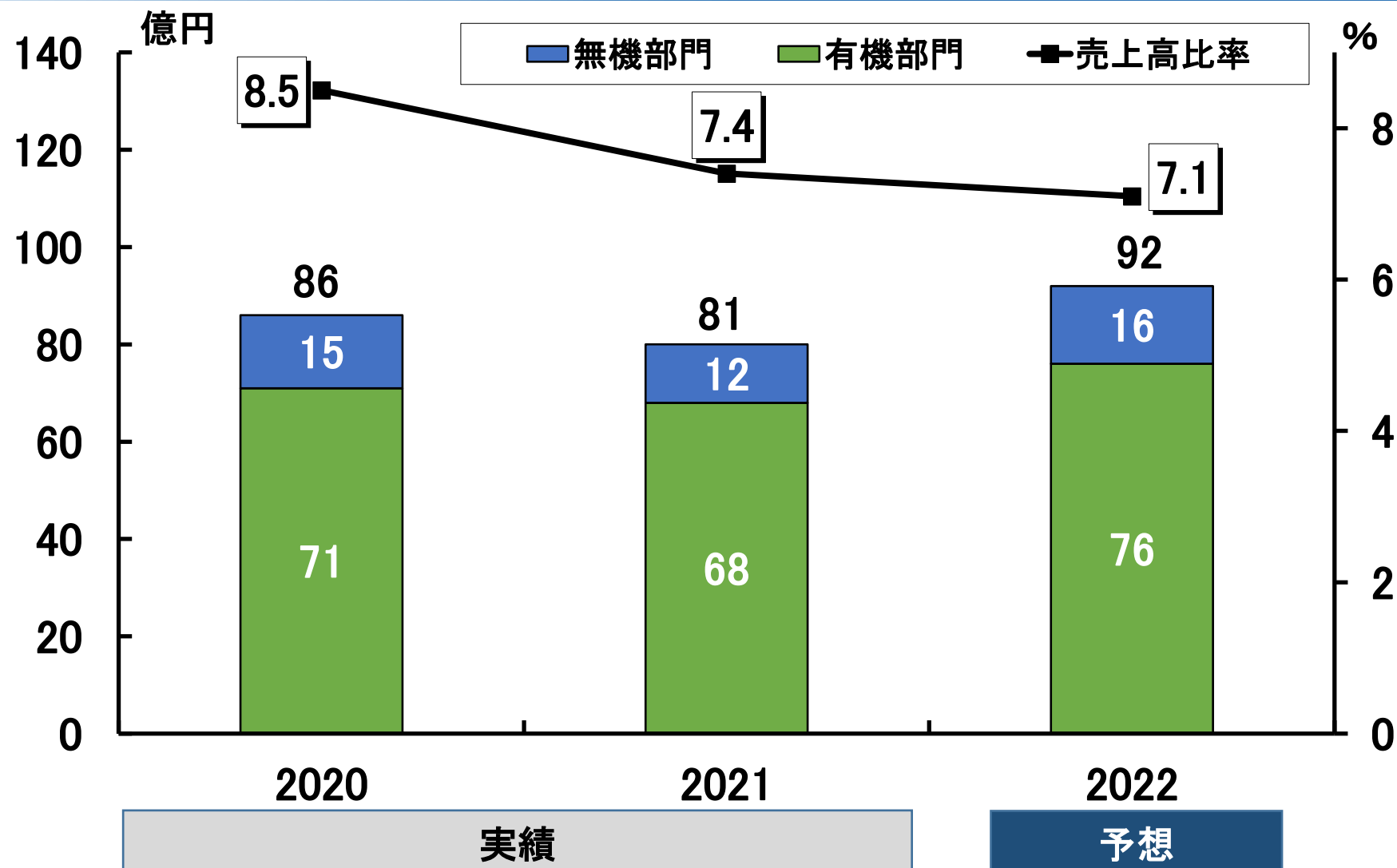


付属資料

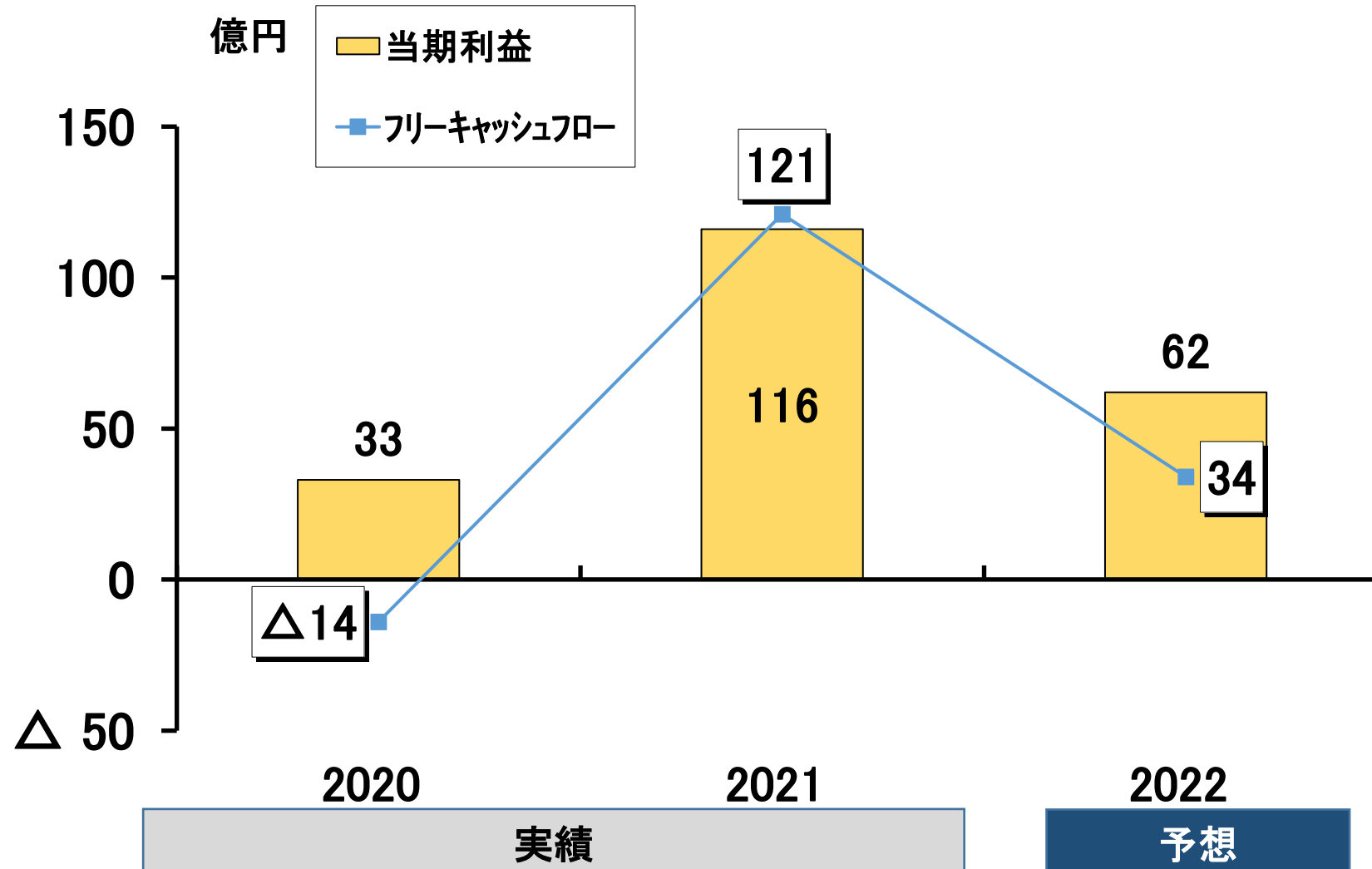
設備投資・減価償却費



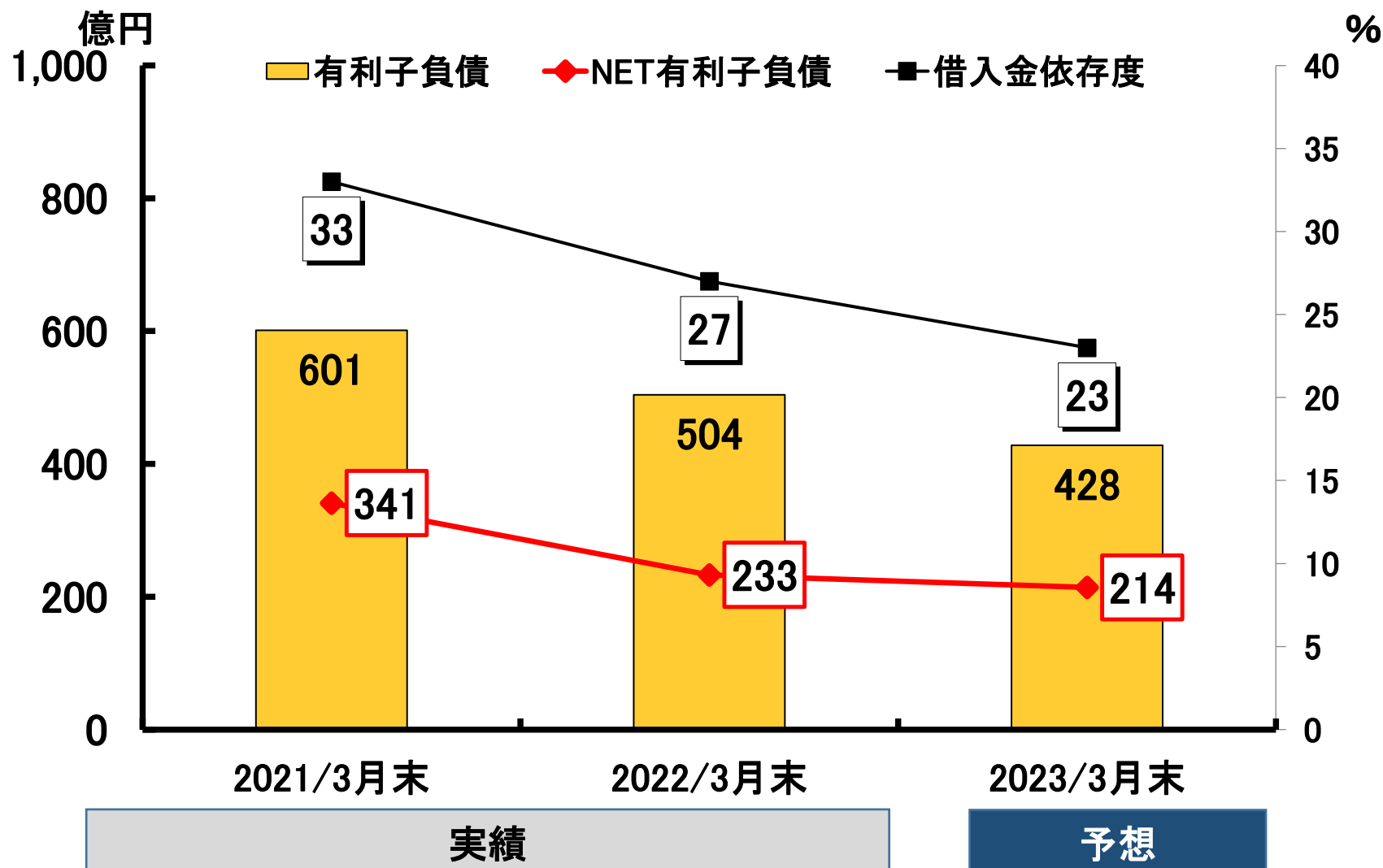
研究開発費



フリーキャッシュフロー



有利子負債残高



将来に関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料に含まれる将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき予想または予測し記載しているものであり、様々なリスクや不確定な要因を含んでおります。従って、実際の業績等は、ここに記載する将来に関する記述とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



青色コチョウラン「Blue Gene」を発売

本年6月に青色コチョウラン「Blue Gene(ブルージーン)」を発売予定です。青色色素を持たないコチョウランにツユクサの青色遺伝子を導入し、17年もの長い期間をかけて開発商品化に成功しました。着色した花の色とは異なる植物が生まれ持つ気高い青色を、自然の風合いとともに長く、開花する花ごとに楽しめます。「Blue Gene」の花言葉は“奇跡のめぐり逢い”。その色褪せない価値を持つ特別な贈りものとして様々な場面でご愛顧いただき、生活の豊かさに貢献していきます。